

SHINSHU Arts Council

2022 ANNUAL REPORT

信州アーツカウンシル
令和4年度活動報告



SHINSHU Arts Council 2022 ANNUAL REPORT

信州アーツカウンシル令和4年度活動報告

目次

- 01 ご挨拶
- 02 信州アーツカウンシルとは
- 04 2022（令和4）年度事業の概略
- 06 信州アーツカウンシルキックオフイベント
- 07 活動基盤強化プログラム・令和4年度アーツカウンシル助成事業の概要

■ A プログラム 活動推進支援

- 08 A-01 麻倉 Arts&Crafts
- 09 A-02 特定非営利活動法人 いいだ人形劇センター
- 10 A-03 おやこのカラダ
- 11 A-04 一般社団法人 大昔調査会
- 12 A-05 株式会社 さきわいクリアシオン
- 13 A-06 特定非営利活動法人 サポート C
- 14 A-07 JDS
- 15 A-08 塩尻アーティストインレジデンス実行委員会
- 16 A-09 Torus Vil.
- 17 A-10 人形芝居燕組
- 18 A-11 特定非営利活動法人 ふるさと芸能研究所
- 19 A-12 向方芸能部
- 20 A-13 特定非営利活動法人 リベルテ
- 21 A-14 わかち座

■ B プログラム 活動基盤強化支援

- 22 B-01 特定非営利活動法人 油やプロジェクト
- 23 B-02 クラシック音楽に親しむ講座の会
- 24 B-03 特定非営利活動法人 劇空間夢幻工房
- 25 B-04 一般社団法人 シアター&アーツうえだ
- 26 B-05 まつもとフィルム commons
- 27 B-06 まるっとみんなで準備室
- 28 B-07 一般社団法人 ○と編集社

- 29 連携・協働プログラム、社会包摂（インクルーシブ）プログラム
- 30 地域創造・交流プログラム（NAGANO ORGANIC AIR）
- 32 地域創造・交流プログラム（シンビズム）
- 34 [コラム] 協働・共創する地域アーツカウンシル
- 36 イベントレポート
- 37 アドバイザリーボード 総評
- 38 信州アーツカウンシル コーディネーター座談会

ご挨拶

私たち信州アーツカウンシルは、信州・長野県に永く受け継がれてきた、自然豊かな風土から紡がれる地域文化や、学びを大切にする精神から醸成される文化芸術を、未来の地域へ持続的に発展させていくことを目指し、「長野県全域において文化芸術活動の創造力・発信力を高める」「文化芸術活動のポテンシャルを社会の様々な領域に広げる」「長野県内の文化芸術活動が持続的に発展する環境を醸成する」という3つのミッションを掲げ、令和4(2022)年6月に活動をスタートしました。

スタートしておおよそ1年が経過したばかりですが、子どもや高齢者、また障がい者など多様な方々とともに生きていくための環境づくりや、民俗芸能や祭りといった伝統文化の継承など、文化芸術を媒介としてさまざまな地域の課題に向き合いながら、助成支援や主催事業などのプログラムに取り組むことができました。

具体的な取組としては、地域のホストとの協働のもと、県内8ヵ所でアーティストによる滞在制作を実施したNAGANO ORGANIC AIRや、県内美術館の学芸員が所属を超えて交流し、信州ゆかりのアーティストによる展覧会を開催するとともに、対話を通じた鑑賞プログラムを実施したシンビズムが挙げられます。これら主催事業のほかに、県内の文化芸術団体への助成を行う「活動基盤強化プログラム」では、単なる助成金の交付にとどまらず、専門スタッフが事業の終了まで伴走する寄り添い型の支援を実施。一度途絶えてしまった民俗芸能を復活させるプロジェクトや、地域に眠る8ミリフィルムを掘り起こし、地域映画として上映するプロジェクトなど、21の事業を支援しました。また、文化事業を積極的に行う県内の民間団体とも連携・協働し、特に信州大学人文学部とは、気候変動をはじめとする環境問題に対して文化芸術が果たす役割を問う新たなプロジェクトを共同で立ち上げました。そして、障がい者のみなさんの美術展への協力なども行うことができました。

これらの支援を通じて、県内で実施されている文化事業の活動や担い手の方々の情報を得るとともに、担い手のネットワークが生まれてきたことが大きな成果であり、今後の地域社会の創造の糸口となるはずです。

長野県は平成27(2015)年度を文化振興元年と位置付け、文化振興基金を創設し、翌年度より「芸術監督団事業」を開始し、6年間にわたり長野県中に文化芸術の種を蒔いてきました。そのレガシーを発展させるためにも、地域主体・県民主体による創造的な地域づくりを推進していくことが私たちの願いです。今後も地域と文化芸術をつなぐ担い手の方々との協働を大切に、県内はもちろんのこと全国に長野県のゆたかさを発信していきます。

この1年の間、アニュアルレポートでご紹介できた方々、またできなかった方々も含め、さまざまなかたちで出会い、そして協力していただいたみなさまに感謝するとともに、今後もより良い仕組みづくりを考え実行してまいります。引き続きのお力添えをお願い申し上げます。

信州アーツカウンシル長
津村卓



信州アーツカウンシルとは

アートを身近に 暮らしを豊かに 様々な人が文化を創り 支え合う

信州アーツカウンシルは、地域の文化芸術活動の担い手を支援しています。信州・長野県の自然豊かな風土や歴史文化、学びを大切にする精神などから育まれる、多様な地域文化や文化芸術の創造性を、持続的に発展させていくことを目的として、令和4(2022)年度に設立されました。一般財団法人長野県文化振興事業団アーツカウンシル推進室(令和5年度より「推進局」)が運営主体となり、長野県、大学、公的機関、民間支援団体、市町村など多様な主体がゆるやかに連携しながら、地域・県民主体で行う文化事業の助成、相談・助言などの寄り添い型の支援を行っています。



広い県土に多様な地域性を有する長野県のアーツカウンシルとして、
2つの観点を重視した文化芸術の環境づくりを進めています。

文化芸術の担い手を支援する

文化芸術の場を開く「担い手」を広く捉え、表現者、参加者、企画・運営者、支援者など、さまざまな人々を支援します。

信州の多様な文化芸術を、多様な主体が支える

県、大学、民間支援団体、市町村、個人、さまざまな主体が連携し、長野県の多様な地域文化を支援する環境づくりを行います。

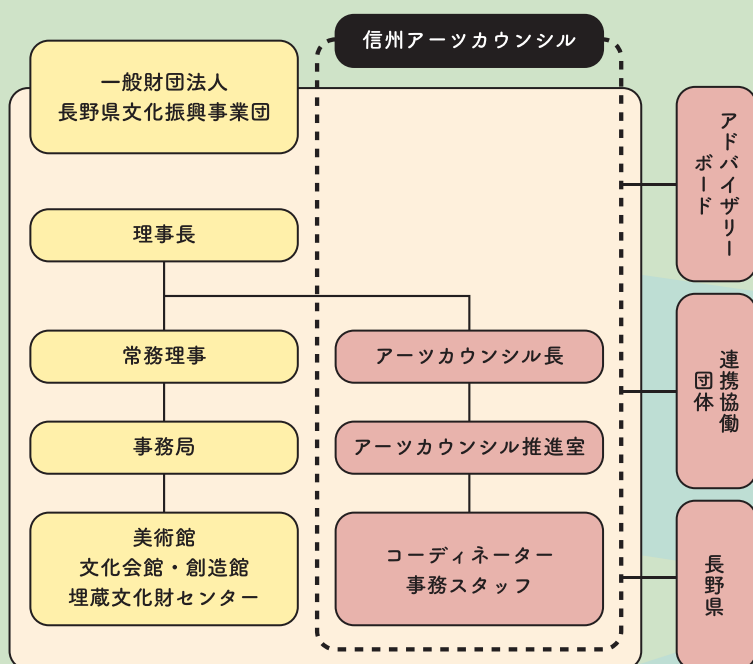
これらの活動を通して、**3つのミッション**を達成していきます。

1 長野県全域において文化芸術活動の創造力・発信力を高める。

2 文化芸術活動のポテンシャルを社会の様々な領域に拡げる。

3 長野県内の文化芸術活動が持続的に発展する環境を醸成する。

【組織図】



【沿革】

2016年

長野県文化振興基金を創設

長野県文化振興基金を活用し、長野県芸術監督団事業着手(演劇・美術・音楽・プロデュースの4分野の芸術監督による企画)

長野県芸術監督団事業 美術部門で「シンビズム」が開始

2018年

第1期長野県文化芸術振興計画(2018～2022年度)に、「文化施策の推進体制」として「専門人材による中間支援機能(長野県版アーツカウンシル)の検討」が明記される

2019年8月

長野県版アーツカウンシル設立に向けた有識者懇談会による討議開始

2021年

長野県芸術監督団事業プロデュース部門で「NAGANO ORGANIC AIR」が開始

2022年4月

一般財団法人長野県文化振興事業団にアーツカウンシル推進室設置

2022年6月

信州アーツカウンシルキックオフイベントを開催(2023年4月 一般財団法人長野県文化振興事業団アーツカウンシル推進局に改称)

【令和4年度 信州アーツカウンシル スタッフ】

■アーツカウンシル長

津村 卓(つむら たかし)

1956年大阪市生まれ。一般財団法人地域創造芸術環境部プロデューサー。国内各地の公立劇場の運営に携わり、2016～20年3月上田市サントミュージゼ館長。2016～21年長野県芸術監督(プロデュース)、2020～21年度長野県芸術監督団事業総合プロデューサー。

■アーツカウンシル推進室

【コーディネーター(専門スタッフ)】

ゼネラルコーディネーター

野村 政之(のむら まさし)

1978年生まれ。長野県塩尻市出身。舞台芸術の創作現場と公的文化芸術支援に並行して携わる。公共ホール、民間劇場・劇団制作部、沖縄アーツカウンシルプログラムオフィサーを経て2018～22年3月長野県県民文化部文化政策課文化振興コーディネーター。

チーフコーディネーター

伊藤 羊子(いとう ようこ)

1994年より(一財)長野県文化振興事業団学芸員として長野県立歴史館、長野県信濃美術館等での企画事業のほか、館外での普及事業を推進。2016年より「信州ミュージアム・ネットワーク事業」や、長野県芸術監督団事業「シンビズム」の制作を担当。

コーディネーター

佐久間 圭子(さくま けいこ)

長野県松本市出身。大阪芸術大学映像学科卒業後、テレビ朝日報道局、信州大学地域戦略センター、株式会社エイブルデザイン、信州地域デザインセンター(UDC信州)を経て現職。公・民・学さまざまな立場で情報発信やデザイン制作を軸にした地域づくりに携わる。



コーディネーター

藤澤 智徳(ふじさわ ともり)

1993年生まれ。長野県中野市出身。大学在学中よりダンス公演や芸術祭の企画制作やドラマトゥルクとして活動。民間商業劇場を経て、2019年より(一財)長野県文化振興事業団で長野県芸術監督団事業に従事。「NAGANO ORGANIC AIR」の制作を担当。

【事務スタッフ】

室長

峯村 高広(みねむら たかひろ)

長野県長野市出身。1995年長野県庁入庁。2022年4月より派遣。

次長

宮本 隆希(みやもと たかき)

長野県須坂市出身。2008年長野県庁入庁。2022年4月より派遣。

主事

保谷 有美(ほや ともみ)

長野県長野市出身。2022年7月より勤務。

令和4年度事業の概略

1 活動基盤強化プログラム

■令和4年度アーツカウンシル助成事業「文化芸術活動の創造性を生かす環境づくり支援プログラム」

長野県の文化芸術の持続的な発展に資する可能性があり、チャレンジ精神や創意工夫の見られる活動で、自らの問題意識に基づいて、社会における課題を設定し、さまざまな人や組織との連携・協働を行いながら取り組む活動を支援。(最大3年まで)

- ・募集期間：4月12日(火)～5月10日(火)
- ・応募件数・採択件数

P8 からの活動報告をご覧ください

種類	想定する活動・支援	上限額・助成率	応募数	採択
A 活動推進支援 プログラム	・地域における文化芸術活動の定着や新たな実施 ・収益性に馴染まないが他分野への波及が期待できる活動の 立上げ支援 など	500,000 円 10/10 以内	52	14
B 活動基盤強化 プログラム	・他分野や県内他地域に展開し県内での新たな活力創出に取 り組むもの ・定着や自走の可能性のある活動を寄り添い型で支援 など	3,000,000 円 1/2 以内 (一般管理費 15% 以内)	13	7

- ・事業期間：6月15日(水)～2023(令和5)年2月28日(火)
- ・支援総額：20,236,978円

2 連携・協働プログラム

■信州大学人文学部との連携事業

- ・学生への講義、シンビズム、NAGANO ORGANIC AIR 研修プログラムへの参加等
- ・連携フォーラム「気候変動時代、未来を創造するアートアクション」開催(3月1日)

■公益財団法人八十二文化財団との協働

- ・シンビズム2022の共催、民俗芸能の保存継承に関する助成事業の支援等に関する情報交換等

■公益財団法人長野県みらい基金との協働

- ・団体への支援・資金調達における協力(「信州の特色ある学び」応援事業ほか)

■南信州民俗芸能継承推進協議会との協働

- ・第1回南信州民俗芸能フェスティバル(2月26日開催)への協力等

3 社会包摂(インクルーシブ)プログラム

■長野県障がい者芸術文化活動支援センター

「ザワメキサポートセンター」(長野県社会福祉事業団)との連携

- ・連携会議を毎月開催し、情報共有と意見交換を行う
- ・ザワメキアート展を共催・広報支援。コーディネーターによる展覧会設営へのサポートなど

P29 をご覧ください

4 地域創造・交流プログラム

■NAGANO ORGANIC AIR 2022

- ・県内8地域に10組のアーティストが滞在し、ホストのコーディネートにより、地域と有機的に関わりながら活動した
- ・短期滞在型研修プログラム「生きることとアートの呼吸」で7名が5日間のプログラムに参加
- ・東京・銀座NAGANOでアートと移住・関係人口に関するイベント開催(12月10日)

■シンビズム 2022

「Re-SHINBISM1そして未来へ」

- ・開催期間：10月6日(木)～23日(日)
- ・会場：ギャラリー 82 (長野市)
- ・来場者数：812名、出品作家15名、ワーキンググループ(県内美術館の学芸員等) 35名
- ・対話鑑賞のプログラムの実施

P30～33 をご覧ください

5 情報発信・認知度向上の取組

- ・信州アーツカウンシルキックオフイベント「信州の多様な文化芸術を、地域の持続的な未来につなぐ」開催(6月11日開催)
- ・県内各地域での説明会・相談会の実施(4月・10月・11月・2月)
- ・県立図書館3F(学び創造ラボ)にアーツカウンシル事業を発信する特設コーナーを設置

令和4年度事業の活動拠点

- A プログラム 活動推進支援
- B プログラム 活動基盤強化
- 連携協働プログラム
- 地域創造交流プログラム(NOA)
- 地域創造交流プログラム(シンビズム)

相談・助言 **100** 団体

助成先 **21** 団体

主催事業での支援・連携 **76** 団体

信州 アーツカウンシルが 2022(令和4)年度に 支援等で 関係した団体数 **197** 団体

② 長野市

- A-05** (株)さきわいクリアシオン
- B-03** NPO 法人劇空間夢幻工房
- NOA** たまに集まるナガノなんでもバンド
- SBS** シンビズム 2022

① 栄村

- NOA** 雪に染まる冬の支度

⑦ 大町市

- A-01** 麻倉 Arts&Crafts
- NOA** ふしぎうぶすなレジデンス @ 信濃大町 STRANGER THAN PHENOMENON

⑧ 安曇野市

- NOA** 踊るからだでみつめる安曇野のくらし

⑨ 松本市

- A-03** おやこのカラダ
- A-07** JDS
- A-09** Torus Vil.
- A-10** 人形芝居燕組
- B-05** まつもとフィルム commons
- 連携** アートアクション

⑩ 塩尻市

- A-08** 塩尻アーティストインレジデンス実行委員会

⑪ 木曽郡

- NOA** 木曽めぐるナンチャラホーイ

⑬ 諏訪市

- A-02** NPO 法人いっだ人形劇センター

⑬ 阿南町

- NOA** 短編演劇『新野物語』ツアー 2022

⑬ 天龍村

- A-12** 向方芸能部

③ 上田市

- A-13** NPO 法人リベルテ
- B-02** クラシック音楽に親しむ講座の会
- B-04** (一社)シアター&アーツうえだ

④ 小諸市

- A-14** わかち座

⑤ 軽井沢町

- B-01** NPO 法人 油やプロジェクト
- B-06** まるっとみんなで準備室

⑥ 小海町

- NOA** Unseen Sea

⑫ 茅野市

- A-06** NPO 法人 サポート C
- NOA** みちのちのダンススケープ

⑬ 諏訪市

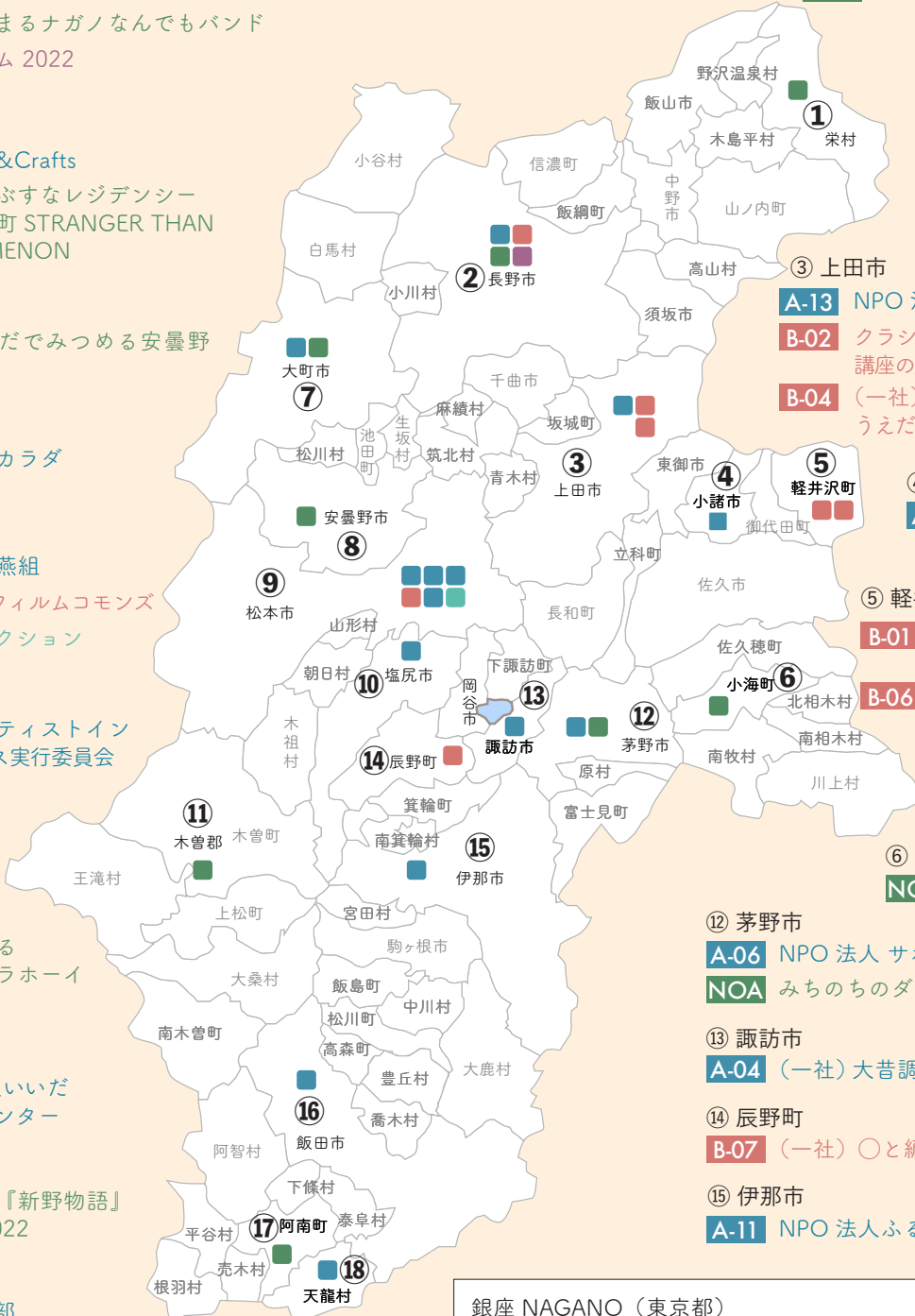
- A-04** (一社)大昔調査会

⑭ 辰野町

- B-07** (一社)〇と編集社

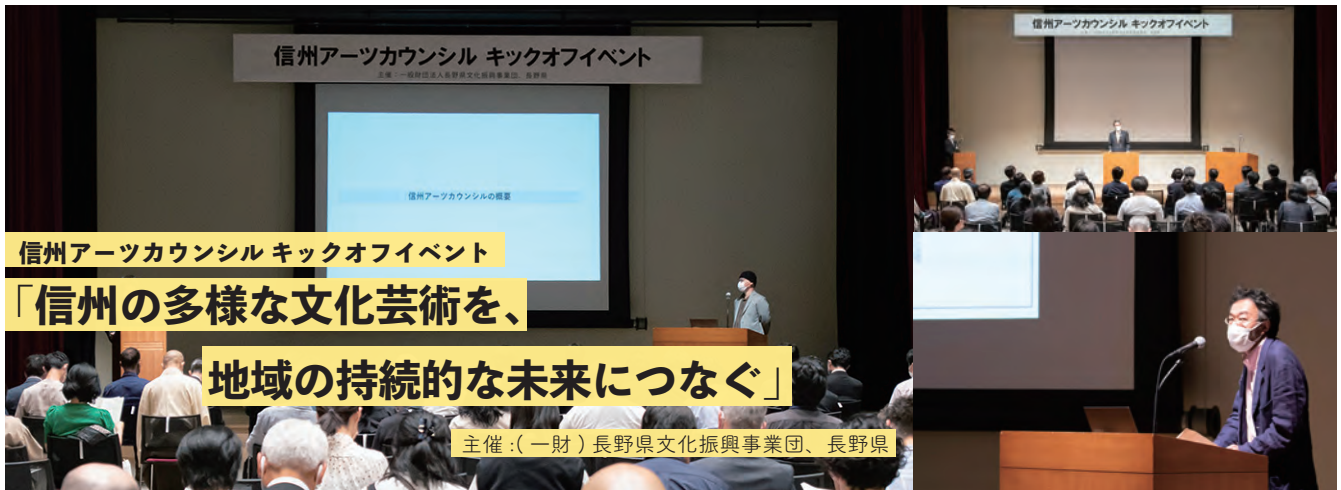
⑮ 伊那市

- A-11** NPO 法人ふるさと芸能研究所



銀座 NAGANO (東京都)

「信州で活動しませんか? 芸能・文化・アート×移住定住・関係人口の取組をご紹介します」※ P36 をご覧ください



アーティスト・文化芸術に関わる人 100 名以上が集い 信州アーツカウンシルの活動がスタート

信州アーツカウンシルの取組を紹介するイベントを6月11日に開催しました。冒頭、アーツカウンシル長・津村卓が「文化芸術の持つ自発的な発想と、そこから生まれる多様な価値観を大切に、信州の多様な文化活動を支える担い手の皆さんに寄り添った活動を進めていくので、ぜひともご協力をお願いしたい」と来場者に呼びかけました。また、阿部守一長野県知事からは「10年後、20年後、長野県の文化振興が大きく前進したのは今日の日があったから、と振り返ることができるよう歩いていてもらいたい」とのエールをいただきました。

国内外のアーツカウンシルの調査研究に長年取り組んでいる、株式会社ニッセイ基礎研究所研究理事・芸術文化プロジェクト室長の吉本光宏さんには、「信州アーツカウンシルへの期待」と題したご講演をいただき、「広い長野県の多様な文化を意

識し、文化芸術から未来を創造していく『旅する(Journey)アーツカウンシル』を目指してほしい」とのお話がありました。

結びに、一般財団法人長野県文化振興事業団・近藤誠一理事長から「文化芸術は限られた人のための特別な存在ではなく、日々の暮らしにおいてみんなで創り、協力し合って共有され、人々の共感力を高める存在である。目に見える成果が出るには多少の時間がかかるかもしれないが、先延ばしにせず、(スタッフは)アーツカウンシルの仕事に全力でまい進してほしい」との言葉がありました。

文化芸術の担い手のみなさん100名以上が集まり、これからの文化芸術活動の環境を思い描きながら、長野県の持続的な未来を共に目指すキックオフミーティングとなりました。

[プログラム]

■信州アーツカウンシルの始動にあたって

- ・津村卓[信州アーツカウンシル アーツカウンシル長]
- ・阿部守一[長野県知事]

■信州アーツカウンシル事業内容、支援についての紹介

- ・野村政之[信州アーツカウンシル ゼネラルコーディネーター]

■令和4年度助成プログラム採択プロジェクトの紹介

- 1:活動基盤強化プログラム
 - ・JDS(松本市)金井ケイスケ
 - ・NPO法人油やプロジェクト(軽井沢町)斎藤尚宏
- 2:連携・協働プログラム
 - ・金井直[信州大学人文学部教授]
- 3:社会包摂(インクルーシブ)プログラム
 - ・中村勤二[社会福祉法人長野県社会福祉事業団]

4:地域創造・交流プログラム

(NAGANO ORGANIC AIR・シンピズム)

- ・倉橋孝四郎[合同会社Rext滝越]
- ・近藤太郎[王滝村地域おこし協力隊]
- ・中嶋実[小海町高原美術館]

■講演「地域におけるアーツカウンシルの可能性」

- ・吉本光宏[(株)ニッセイ基礎研究所研究理事・芸術文化プロジェクト室長]

■結び

- ・近藤誠一[(一財)長野県文化振興事業団 理事長]

会期:6月11日(土) 14:30~16:30 (2時間)

会場:ホクト文化ホール(長野県県民文化会館)小ホール

入場料:無料

参加者:100名

活動基盤強化プログラム

文化芸術活動の創造性を生かす環境づくり支援プログラム

信州アーツカウンシルの主軸となる助成事業です。地域の文化芸術団体等の持続的な活動に対して資金的支援を行うとともに、相談・助言など寄り添い型の支援を行います。各事業の詳細は次ページから紹介していきます。

A プログラム

活動推進支援 14件

文化芸術と教育・福祉・観光・農業・まちづくりなどが連携した意欲的な取組の立ち上げや継続を支援しています。

B プログラム

活動基盤強化支援 7件

県内の文化芸術団体とアート拠点が地域に根付き、持続的発展を目指す取組を支援しています。

ページ P5マップ

- 08 **A-01** 麻倉 Arts&Crafts
- 09 **A-02** 特定非営利活動法人
いいだ人形劇センター
- 10 **A-03** おやこのカラダ
- 11 **A-04** 一般社団法人 大昔調査会
- 12 **A-05** 株式会社 さきわいクレアシオン
- 13 **A-06** 特定非営利活動法人 サポート C
- 14 **A-07** JDS
- 15 **A-08** 塩尻アーティストイン
レジデンス実行委員会
- 16 **A-09** Torus Vil.
- 17 **A-10** 人形芝居燕組
- 18 **A-11** 特定非営利活動法人
ふるさと芸能研究所
- 19 **A-12** 向方芸能部
- 20 **A-13** 特定非営利活動法人 リベルテ
- 21 **A-14** わかち座

ページ P5マップ

- 22 **B-01** 特定非営利活動法人
油やプロジェクト
- 23 **B-02** クラシック音楽に親しむ
講座の会
- 24 **B-03** 特定非営利活動法人
劇空間夢幻工房
- 25 **B-04** 一般社団法人
シアター & アーツうえだ
- 26 **B-05** まつもとフィルム commons
- 27 **B-06** まるっとみんなで準備室
- 28 **B-07** 一般社団法人 ○と編集社

01

麻倉 Arts&Crafts

誰もが持っている創造する楽しさを引き出す
～麻倉を一步未来へ進めるプロジェクト

団体所在地／大町市 MAP A-01

団体概要／
2008年、麻の集積場だった倉をリノベーションし、クラフト作品紹介や美術を通じた交流場所として出発。2013年から大人の美術部「麻倉美術部」発足。美術展やクラフト展、音楽会、演劇会、歌声喫茶などさまざまな創作活動を行う。



1:額縁を片手にお気に入りの絵を探し出す 2:全体が白く覆われた麻倉Arts&Crafts 3:好きな色で好きな絵を描く

■真っ白い部屋におもいきり絵を描く

大町市のアート拠点である麻倉Arts&Craftsでは、年間を通じてさまざまな企画でユニークな創作活動を行っており、「白い部屋にいっぱい絵を描こう」もその1つ。麻倉Arts&Craftsの2階をすべて模造紙で覆い、真っ白い空間に仕立て上げ、床や壁に好きなだけ大きな絵を描くことができる。「大町冬期芸術大学」のインスタレーションで使った大量の紙を再利用するのが最初の目的だったが、その楽しさから毎年開催をしていくことになった企画だ。

11月には、一面の絵でカラフルに色付いた部屋を展示し、最後は好きなところを切り取って額に入れる「額縁に入れるとっておきの絵を見つけよう！」を開催した。参加者は自分が描いた力作や、知らない誰かと誰かの合作を額におさめ、新たな価値を与え、お気に入りの絵を探し出す楽しさを体験した。手づくりならではの魅力を大切に麻倉らしい視点で、子どもから大人までみんなを夢中にしていた。

■麻倉アートレシピ制作を通して

本事業のもう1つの取組として、オリジナルな発想あふれる麻倉の活動を冊子にまとめ、より多くの方に伝えるためのアートレシピ集の制作を行った。

活動記録誌3冊目となる今回は、今まで一緒に麻倉の活動を支えてきた作家たちが、それぞれのアートや企画の作り方レシピの中から、とっておきのおすすめを持ち寄り1冊におさめた。テーマや切り口もさまざまで、多くの人に関わって麻倉Arts&Craftsができてることがよく伝わるレシピ集が完成した。また、この制作過程を通して、改めてこれまでの活動を見つめ直し、麻倉Arts&Craftsの活動の価値を再発見する機会となった。

活動内容

- ① 11月初旬～11/18
白い部屋設営・白いオブジェ作り
- ② 11/19
真っ白い部屋にお絵描き
参加費：500円、中学生以下 300円
- ③ 11/20～12/4
公開展示
- ④ 12/2～4
額縁に入れるとっておきの絵を見つけよう！
参加費：額縁代（200円～500円）
+カンパ
- ⑤ 11月～2月下旬
アートレシピ集制作

コーディネーターより

麻倉Arts&Craftsの独創的な創作活動をアートレシピで見える化することが、外への広がりだけでなく内部での活動の価値再発見につながった。私自身もときほぐされる不思議な魅力の事業だった。(佐久間圭子)

“人形劇のまち飯田”から発信する 人形劇の楽しさをつたえ、ひろげるワークショップ

団体所在地／飯田市  MAP A-02

団体概要／
「市民文化と人形劇文化
および、飯田地域全体の
活性化に寄与すること」
を目的に2013年に設
立。人形劇の定期公演や
人形劇にまつわるワー
クショップを開催している。



1:出張講座「ハンドパペットをつくろう」では、オリジナルの人形を制作 2:子ども向けのワークショップ「ちっちゃい人形をつくろう」
3:「張り子でお面をつくろう」では本格的なお面作りに挑戦

■手から生まれる人形劇の魅力

飯田市を含む伊那谷には数百年の歴史を持つ今田人形(飯田市)、黒田人形(飯田市)、古田人形(箕輪町)、早稲田人形(阿南町)という4つの伝統人形芝居があり、各地域の市民が保存や振興に取り組んでいる。特に飯田市は、日本最大の人形劇イベント「いいだ人形劇フェスタ」が行われるなど、多くの市民が人形劇と関わりながら暮らしている「人形劇のまち」である。

今年度は各種人形劇講座を飯田市で実施したほか、「飯田市以外の場所でも人形劇の楽しさを伝えたい」という思いから、松川村や飯山市、辰野町でも人形づくりのワークショップを開催。子どもから地元劇団員といった経験者まで、幅広い参加者に対応したプログラムを組み、指人形やお面人形などの制作機会を提供した。

「わかりやすく話す、読むための基礎講座」では、小学6年生から70代までが参加。人形劇に関わる声の表現について、幅広い年代と一緒に学べる機会ともなった。また、ハンドパペットをつくった参加者からは「つくった人形から物語が生まれることも感じてみたい」といった声が聞かれた。

■人形づくりから“表現の場”づくりへ

コロナ禍で交流の機会が減っていた人々に、創作や表現の楽しみを共有できる場を届けてきた「いいだ人形劇センター」。今後は、同会場で複数の講座を展開することを視野に入れ、新たなプログラムの考案に挑戦するほか、「つくった人形を動かしたい」という要望に応えるため、ワークショップ後半にエチュードを取り入れるなどのアイデアもある。次年度に向けて活動の幅が広がる1年となった。

活動内容

① 5/28・29、6/18・19

片手違い人形講座

飯田文化会館

② 9/6、11/8、12/12

ハンドパペットをつくろう

松川村図書館・辰野町立辰野図書館・おもちゃの木(伊那市)

③ 10/29

ちっちゃい人形をつくろう

飯山市子ども館きらら

④ 11/12・13・19・20

張り子でお面をつくろう

飯田文化会館・飯田市公民館

⑤ 1/28、2/4

わかりやすく話す、読むための基礎講座

飯田市川本喜八郎人形美術館

コーディネーターより

飯田市の市民文化たる「人形劇」を全県に普及・定着させようという溢れる野心を隠さないその姿勢に、いいだ人形劇センターの本気さが表れている。(藤澤智徳)

03

おやこのカラダ

にちカラ 夏休み特別企画／お話×ダンス×音楽
「子どもとアーティストのでっこぼっこ劇場」

団体所在地／松本市 MAP A-03

団体概要／
子どもを対象に「にちようカラダのワークショップ」を主催。自由な発想で体を使って遊ぶことの「おもしろさ」をアーティストと一緒に発見し、新しい遊びや人間関係を楽しみ、感性を育むことを目的に活動している。



1: 子どもの発想から生まれた物語と動き、アーティストの演奏や演技が融合した作品に
2: 子どもとアーティストが一緒になって本番で着る衣装づくり



活動内容

- ① 7/24 オリエンテーション
 - ・ファシリテーター＋アーティストによるミニ劇場上演
 - ・ウォーミングアップ(準備体操、コミュニケーションワーク)
 - ・ヴィオパーク探検とお話づくり
 - ・保護者向け説明会
- ② 7/28 ワークショップ1日目
 - ・お話づくり
 - ・動物に変身するワーク
 - ・テーマソングと動きづくり
- ③ 7/29 ワークショップ2日目
 - ・セリフの練習
 - ・動物に変身するシーンづくり
 - ・ゆっくりで変な動き、みんなでくっつくシーン
 - ・衣装と大道具づくり
- ④ 7/30 ワークショップ3日目
 - ・ストレッチ
 - ・道具と衣装づくり続き
 - ・全体を通す
- ⑤ 7/31 公開パフォーマンス
- ⑥ 11/13 上映会・トークイベント「にちカラのこぼれ話。」

■子どもの発想から生み出す「でっこぼっこ劇場」

夏休みの5日間、6～10歳の子どもたち17名が松本市四賀のヴィオ・パーク劇場に集った。からだ遊びや探検を通して劇場の中や周りを観察し、お話やテーマソング、動き、衣装や小道具・大道具まで、子どもたちの発想から創作。子どもたちとアーティスト(成田明加[演劇]／矢萩美里[ダンス]／3日満月[音楽])が、五感を目一杯に広げて一緒に創った約30分のパフォーマンスを、最終日に観客の前で上演した。劇場の暗闇から始まり、子どもたちが息を合わせて生き物や妖精を演じ、巨大人形を操って野外でフィナーレを迎える。このメンバー、この場所でしか生まれない作品ができあがった。子どもも大人もそれぞれの役割を担いながら学び合い、主体的に参加した満足度の高いプログラムとなった。この取組を通して、大人は子どもとの関わりについて見直す機会となり、来年は対象年齢から外れる子どもから「次は参加者を支える役割で関わってみたい」といった意見も出た。

■でっこぼっこ劇場を振り返る「にちカラのこぼれ話。」

このプログラムの様子は、ドキュメンタリー映像『ある夏の5日間』(撮影・編集:前田斜め)に記録された。そして11月には、映像で振り返りながら教育関係者とのトークイベントを開催。神澤真江さん(松本シュタイナー認定こども園ひなたぼっこ)、小林美和さん(インターナショナルスクールオブ長野)、県内の学校関係者や身体表現に関わる人たちとともに、「子どもにとっての学びのあり方」について考える機会となった。



コーディネーターより

子どもが大人の力を借りながら、他者の意見やアイデアを受け入れ、自発的に創作する過程を経た公演は、年齢に関係なく、関わった人にとって忘れられない素晴らしい時間だった。(佐久間圭子)

団体概要／
「あの頃を、あたらしく、おもしろく。」をテーマに、考古学や歴史学等に根ざして、地域の大昔（原始・古代）や昔（中近世・近現代）に関わる歴史的文化的遺産の保護・活用に資する活動を行う社会貢献団体。



1:公演『本朝廿四孝』『奥庭狐火の段』 2:八剣神社・宮坂清宮司と技芸人(鶴澤清志郎・吉田養之)による対談「諏訪湖の歴史と伝承」
3:桐竹勘次郎による人形使いの説明と体験

■人形浄瑠璃文楽を通じて学ぶ、諏訪地域の歴史と文化

「八重垣姫」が登場する『本朝廿四孝』は、人形浄瑠璃及び歌舞伎などの伝統芸能では人気演目として知られる。諏訪が舞台であるだけでなく、地域の歴史(諏訪大社や諏訪法性の兜)や伝承(武田と上杉(長尾)の話、現象(御神渡り)などが取り込まれる類い稀な作品であるにもかかわらず、“ご当地”ではあまり知られていない。そこで、「諏訪神仏プロジェクト」(神仏習合時代の諏訪社関係仏像等を一齐公開するイベント)の開催に合わせて、諏訪が舞台である文楽『本朝廿四孝』の上演を通して地域の歴史・文化を掘り下げるとともに、地域住民・子どもたちへの普及の機会とした。

「諏訪大明神」ゆかりの寺院である照光寺を会場に2日間、2回公演を実施。プログラムには、演目に登場する「諏訪湖の御神渡り」の歴史と伝承について、演者と「御神渡り拝観」を司る八剣神社宮司の対談を行うなど、諏訪地域の伝統や伝承を学べるものを組み込んだ。

また、子どもは入場無料にすることで参加の関口を広げ、人形を実際に動かしてみる体験型プログラムを実施。登場人物の「八重垣姫」の銅像が諏訪湖上にあることを通じて、子どもたちに対して諏訪湖への興味・関心にもつなげたいと考えた。

チケットは2日間とも即日完売し、地域住民の関心や期待の大きさがうかがえた。

諏訪地域が舞台である演目を、この地域で継続的に実施していくことが、人形浄瑠璃文楽やこの物語が地域に根付いていくことの近道であると考え。今後は子どもたちが気軽に参加できる事業の構築や、圏域外の文楽ファンを巻き込み、観光客の誘致につなげていきたい。

活動内容

『本朝廿四孝』『奥庭狐火の段』の公演を主とし、地域の伝承や文化芸能を学べるイベントを10月21・22日に実施した。

① オープニング

「谷響」メンバーによる仏教音楽・声明、照光寺僧侶・宮坂宥憲氏による講話「諏訪大明神と呼ばれた仏様」

② 対談「諏訪湖の歴史と伝承」

八剣神社・宮坂清宮司と技芸人(鶴澤清志郎・吉田養之)

③ 人形浄瑠璃(豊竹芳穂太夫)・人形使い(桐竹勘次郎)の説明と体験

④ 公演『本朝廿四孝』 「奥庭狐火の段」

コーディネーターより

文楽と諏訪地域の関わりを再確認するとともに、次世代を担う子どもたちが文化芸術を体験し、地域の歴史文化や自然を学ぶ、文化的資源の発掘・活用・継承に資する取組。今後の観光資源化にも期待。(伊藤羊子)

05

株式会社さきわいクリエイション

戸隠・是色館プロジェクト第三章

佐藤健作和太鼓ライブ「遊心 YUSHIN」

団体所在地／長野市 MAP A-05

団体概要／
長野市を拠点に和太鼓奏者・佐藤健作さんの公演の企画・制作を行う。佐藤さんはこれまで、一流アーティストたちとの共演や高千穂神社、厳島神社、出雲大社、熊野本宮・那智大社など、神社神域での奉納演奏も多数行っている。



1:和太鼓奏者・佐藤健作さんとゲストダンサー・森山開次さんの競演 2:木造の元体育館の劇場「是色館」。観客は超近距離で鑑賞できる
3:東京2020オリンピック競技大会閉会式でも披露した大太鼓「不二(ふじ)」をはじめ、大小さまざまな和太鼓を演奏する佐藤さん

■木々に囲まれた神秘的な空間「是色館」

長野市戸隠の森の中にある是色館は、国内外で活躍する和太鼓奏者・佐藤健作さんが、木造の元体育館を活用して日々鍛錬を積んでいる稽古場である。2020（令和2）年、コロナ禍で活動を制限された芸術家・演奏家と、観劇の機会が減った観客双方のために活動拠点をつくりたいという思いから、ソロやコラボレーションなどの公演を行う「戸隠・是色館プロジェクト」がスタートした。

第3弾にあたる「遊心 YUSHIN」はダンサーの森山開次さんをゲストに招き、ダンスと和太鼓による一期一会の時空間を生み出すコラボレーションライブを行った。

是色館の周辺は木々に囲まれ、鳥の声や風、雨の音など和太鼓の音色以外にもさまざまな音がパフォーマンスを引き立て、神秘的な空間をつくり出した。2日間の公演で約80名が来場、4割が県外からの来訪、そのうち3割は戸隠初来訪だった。公演の前後には信濃毎日新聞、NHK長野放送局に取り上げられ、県民の多くの方に活動を知っていただくきっかけとなった。

■戸隠の新たな観光資源に

戸隠神社は長年多くの人々の信仰の対象となっており、名産の戸隠そばやアウトドアなどの楽しみも多い長野市戸隠は、国内外から観光客を集める個性的な地域である。当プロジェクトの実施にあたっては、戸隠観光協会や近隣の旅館との連携を強化し、観客の地域内移動のサポートにも配慮をすることで、観劇だけでは終わらない工夫を進めている。すでにある地域の魅力に加えて、戸隠・是色館プロジェクトが新たな文化資源、観光資源となり、地域の持続ある発展につながっていくことが期待される。

活動内容

- ① 8/22
戸隠観光協会とのミーティング
- ② 8/29
NHK長野放送局取材
- ③ 9/3
本番①・信濃毎日新聞掲載
- ④ 9/4
本番②
- ⑤ 9/7
NHK長野放送局「イブニング信州」放送

コーディネーターより

戸隠を拠点にした和太鼓奏者・佐藤さんの是色館プロジェクトの試みが、戸隠の観光や教育・地域づくりに波及し、地域のつなぎ役となって創りあげられる新たな文化が楽しみ。(佐久間圭子)

「みつばちプロジェクト」～あーとが届かない子どもたちのところにあちこちまわってあーとをお届けします～

団体所在地／茅野市 MAP A-06

団体概要／
2006年設立。茅野市民館と協働し、茅野市民館とその利用者のサポートを行っている。文化活動や市民の交流を通じて、地域の文化度を高め、心豊かなまちづくりに貢献することを旨とし、活動している。

Aプログラム 活動推進支援



1:「コミュ・きっちん天香」の演劇 2:みんなのお家すまいるのパントマイム

Bプログラム 活動基盤強化

活動内容

- ① コミュ・きっちん天香@宮川かんでんぐら(茅野市)
7/7 おでかけ隊 with 柏木陽 / 演劇
9/15 たもん / ジャグリング
11/17 宮澤昭子 / ピアノ演奏
1/19 おでかけ隊 / 演劇
- ② 北山地区こども館「星空館」(茅野市)
8/23 たまごプリン / 管楽器パフォーマンス
10/4 ねこじゃらし / 人形劇
11/10 おでかけ隊 with 柏木陽 / 演劇
2/4 柏木陽 / 演劇ワークショップ
- ③ こももアート食堂(アトリエももも・茅野市)
2/19 おでかけ隊 with 柏木陽 / 演劇&ワークショップ
- ④ 子ども食堂「だるま食堂」(岡谷市)
11/26 おでかけ隊 / 演劇
12/18 たもん / ジャグリング
1/22 たまごプリン / 管楽器パフォーマンス
- ⑤ みんなのお家すまいる(諏訪市)
12/21 ほっしー / パントマイム

連携・協働プログラム
社会包摂プログラム

地域創造・交流プログラム
(NOA)

地域創造・交流プログラム
(シンビズム)

■子どもと文化芸術の接点を増やす

「みつばちプロジェクト」は、文化芸術に触れる機会が少ない子どもたちに「あーとをおどどけ」することを目指して、今年度スタートした。音楽やパントマイム、演劇、ジャグリングパフォーマンスなどのさまざまな表現者が、茅野市、岡谷市、諏訪市の子どもたちがいるところへ出張公演を行った。

子どもたちには毎回オリジナル缶バッジをプレゼント。デザインが変わったことに気づいたり、数が増えていくことに喜んだり、気持ちが和むツールとなった。

「最初は、お子さんたちが楽しんでくれるか不安なところから始まったけれど、何度もやっていくうちに楽しみにしてくれて。繰り返し訪れている場所では、『この前、来てくれていた人たちだよね』などと覚えてくれていてうれしかったです。『サーカスみたい』『オーケストラみたい』という感想を話してくれたお子さんもいました。大きな規模じゃないけど、“生のもの”の楽しさを感じてもらえたのかなと思います」と、サポートC理事で「おでかけ隊」でもある五味三恵さん。

演者にとっては「子どもたちの居場所」に出向くことの必要性を感じる場となり、「自分たちもパフォーマンスができることがうれしい」「機会があったらまた声を掛けてほしい」などの声もあった。

家庭の経済的理由や文化芸術への無関心から、文化芸術事業に参加する機会がない子どもたちもいる。また、コロナ禍にあって茅野市民館でも多くの催しが中止となり、子どもたちの鑑賞・体験の機会も激減していたことから、子ども食堂や地区こども館を会場として、多様な事情を抱えている子どもたちにアクセスできるようにした。今後も事業を継続し、文化芸術に気軽に親しめる場づくりを行っていく。

コーディネーターより

子ども食堂・こども館を利用する子どもたちに地域で活動するパフォーマンスを届ける、届けたい対象が明確。親に活動を伝えることを意識したバッジ贈呈も重要。継続により波及効果が見えてくることを期待。(伊藤羊子)

つながるサーカスワークショップ 障害の有無や世代、地域を超えて多様な人々がソーシャルサーカスでつながるプロジェクト

団体所在地／松本市 MAP A-07

団体概要／
金井ケイスケ氏が2013年から開始した松本ジャグリングクラブを前身とし、2021年に設立。サーカスやジャグリングによる社会貢献活動からアーティストのイベント出演までをマネジメントしている。



1:リベルテとの事前交流。サーカスのメイクで心が開いた参加者も 2:松本市波田でのワークショップ。皆で息を合わせる
3:報告会でのシンポジウムの模様

■多様な人々とソーシャルサーカスの輪を広げる

国内外で、サーカス技術の習得を通じて多様な人々が協働するソーシャルサーカスに取り組んできた金井ケイスケさんが、県内3地域で巡回ワークショップを行い、そのまとめとして取組を振り返り、今後の取組について考える報告会を行った。

今回の取組では、障害のある・なしに関わらず、多様な人々が日常生活や文化芸術活動などの場面で関わりあえるよう、心のバリアを取り除くこと、そして、障害のある人とない人が一緒に参加するワークショップにおいて、多様性に配慮した実施ができる人材を育成することを目的に、上田市ではリベルテ、軽井沢ではほっちのロッヂ、松本市波田では一般社団法人波田コミュニティデザインクラブと連携。地域をワークショップでつなげ、それぞれの地域で子どもから大人までが一緒に参加して、バリアを超える体験を共有する機会となった。

報告会では、各地域のワークショップに講師として参加した信州ユースサーカスの中高生がパフォーマンスを披露した後、金井さんとともに日本におけるソーシャルサーカスを牽引するSLOW LABEL代表の栗栖良枝さんが講演した。栗栖さんは、東京2020パラリンピック競技大会開閉会式に至る活動の軌跡と成果を紹介した後、地域での日常に近い取組の重要性を強調し、本事業の試みを評価した。

ソーシャルサーカスのワークショップは、協力しあう相手と互いに呼吸を合わせながら、サーカス技術の応用となるタスクと一緒に実行する。ささやかな共同作業でありながら、その日初めて会った年代や背景も異なる参加者の間の心のバリアがとけ、共に楽しみ協力しあう関係性が生まれる。JDS・金井さんとともに今後この取組で協働し、継続していく担い手の輪が広がることを期待したい。

活動内容

① 7/10

ソーシャルサーカスワークショップ
連携:リベルテ 会場:犀の角(上田市)

② 8/2～4

ソーシャルサーカスワークショップ
連携:ほっちのロッヂ(軽井沢町)

③ 9/3

ソーシャルサーカスワークショップ
連携:波田コミュニティデザインクラブ
会場:松本市西部保健センター

④ 11/4

報告会

・信州ユースサーカスパフォーマンス
・SLOW LABEL 代表・栗栖良枝さん
レクチャー
・シンポジウム
会場:信毎メディアガーデン(松本市)

コーディネーターより

出会ったばかりの人とあつという間に打ち解けて、一緒に安心した楽しい時間を過ごせる。参加してみてソーシャルサーカスの力に驚いた。この体験と気づきがより多くの人に広がってほしい。(野村政之)

団体所在地／塩尻市 MAP A-08

団体概要／
ANAホールディングス(株)とのアーティスト・イン・レジデンス事業「ANA COM」(2020～21年)の共催をきっかけに設立。美術館のない塩尻市において、日常のなかで作品や作家と接点を持つ機会づくりとして取り組んでいる。



1:「キャンパスをつくろう!」 2:「音楽との出会い〜心に響くカンティレナーナのメロディ」



活動内容

- 1/6・8「キャンパスをつくろう!」
講師：蓮沼昌宏(アーティスト)
会場：シビック・イノベーション拠点「スナバ」、北部交流センター「えんてらす」
- 1/13・14「音楽との出会い〜心に響くカンティレナーナのメロディ」
講師：Adrián Dvoracek(ヴィオラ)、吉見伊代(チェンバロ)
会場：近自然的環境保育 自然ランド・バンバン、市民タイムス 塩尻ホール
- 1/20・22「チンパンジーとピカソにアートを学ぼう!」
講師：齋藤亜矢(芸術認知科学)
会場：「スナバ」
- 1/21 代替WS「絵を描こう!」
講師：蓮沼昌宏(アーティスト)
会場：市民交流センター「えんぱーく」多目的ホール
- 1/23「絵具のレシピ〜秘密のクッキング」
講師：加藤巧(アーティスト)
会場：「スナバ」
- 1/23、2/6・7「名前を踊ろう!」
講師：酒井幸菜(振付家・ダンサー)
会場：塩尻市立榎川小中学校/「スナバ」

■塩尻市で芸術に触れる機会を

企業との協働により、塩尻市で過去2年間実施したアーティスト・イン・レジデンス事業の継続と基盤強化を目的に、滞在制作の拠点整備と定着に向けた地域との関係づくりを図った。

「Workshop Terminal」では、美術、音楽、ダンス、芸術認知科学など、多様な芸術に触れるワークショップを市内で計12回開催し、園児や小中学生及び高校生・起業家・社会人など、のべ150人以上が参加。上手い下手を基準としない表現につながる過程を体験する機会となり、芸術文化への親しみを育むきっかけとなった。

なかでも榎川小中学校で行ったダンスワークショップはキャリア教育の一貫で実施。普段関わることが少ないアーティストのキャリアや、表現活動を支えるさまざまな役割や仕事の存在に触れる機会となった。

■AIR事業拠点整備に向けて

塩尻市内のさまざまな場所でのワークショップの企画・開催を通じて、地域の教育関係者や塩尻市市民交流センター「えんぱーく」職員との関係構築、公共施設・学校との連携、市民への活動の周知という面で成果があった。しかし、空き物件の活用を念頭に置いていた拠点整備に関して、令和4(2022)年度は条件が整わなかったため、引き続き複数の選択肢を模索していく。市の地域おこし協力隊メンバーが中核となって、個々の経験を生かし、地域と関わりながら新たな文化芸術活動を立ち上げるものであり、持続的な取組を期待したい。

コーディネーターより

芸術に関わることの本質的な面白さに触れることができた事業。ワークショップの企画力が素晴らしく、学校教育だけでは得られない多彩で興味深い学びがあった。(佐久間圭子)

団体所在地／松本市 MAP A-09

団体概要／
音楽家・佐藤公哉が発足したプロジェクト／ネットワーク。伝統的な文化・芸術のリサーチを行いながら、現代に必要とされる文化のエッジを生み出すことを目指す。音楽制作を中心に、公演やワークショップなども開催。



1:「雲水FES Vol.2 -南信州郷土芸能に寄せて-」 2:「和合の念仏踊り」の「ヒツチキ」
3:「和合の盆踊り」練習の様子

■現地での身体体験を通して民俗芸能を現代に蘇らせる

音楽家・佐藤公哉率いる Torus Vil. では、これまで青森県、岩手県、新潟県などで現地の郷土芸能や伝承歌を取材し、芸能のなかに伝承されている身体の使い方、太鼓のリズム、発声や節回しなどから新たな音楽や舞台芸術を制作する「MIKUSA PROJECT」の活動を行ってきた。長野県内の芸能に関しても、2021（令和3）年には県文化芸術活動推進支援事業の補助を受け、伊那市の田楽座から天龍村大河内地区の霜月神楽の舞や太鼓などを学び、そこから着想を得た楽曲を制作した。

今年度は、阿南町和合地区で伝承されている「和合の念仏踊り」（国指定重要無形民俗文化財）を対象とした。7月、共作するミュージシャン、ダンサーとともに、阿南町和合地区の林松寺での住民のみなさんの稽古に混ぜていただき、太鼓や踊りなどを実際に体験。そして8月の本番の見学を経て、新たな楽曲とダンスを創作し、11月に松本市のヴィオ・パーク劇場で音楽とダンスのライブパフォーマンスを行った。「和合の盆踊り」に参加した体験を踏まえ、オリジナルの輪踊りを創作してワークショップを行った。

「MIKUSA PROJECT / KIMIYA SATO MIKUSA BAND」の活動は本事業の枠にとどまるものではなく、2023（令和5）年3月には東京都と埼玉県でライブを行い、首都圏を中心に多くの音楽関係者、評論家、ダンサーなどを惹きつけた。こうして中山間地の魅力ある伝承文化が開かれ、新たな関心層を得ることに、広い可能性がある。さらに今年（2023年）は音源としても収録し、リリースする予定だという。南信州でのライブパフォーマンスや、伝承団体との共演といった展開も検討されており、これからも活動から目が離せない。

活動内容

- ・6～7月 伝承団体の了承を得て、阿南町「和合の念仏踊り」の取材を行うことに決定
- ・7/20・27 保存会・地区のみなさんによる「和合の念仏踊り」稽古に参加
- ・8/15 「和合の念仏踊り」本番を見学し、撮影等を行う
- ・8～10月 取材をもとにした楽曲・ダンス創作／取材記録動画を公開
- ・11/12 イベント「雲水FES Vol.2 -南信州郷土芸能に寄せて-」
会場：ヴィオ・パーク劇場
- ・2/20 記録映像「MIKUSA PROJECT 2022 -WAGO-」Youtube で公開

コーディネーターより

まず伝承団体のみなさんの実演が素晴らしく、それを自らの身体で誠実に取材する姿勢で楽曲制作が行われる。民俗芸能の担い手確保が課題となるなか、こうした契機で関心を持つ人が増えると望ましい。（野村政之）

人形劇「さんびきのこぶた」の創作と上演を通しての育成プログラム

団体所在地／松本市  MAP A-10

団体概要／
人形芝居燕屋のくすのき燕が、2022年に県内の若手俳優と立ち上げた団体。人形劇作品の創作を行い、保育園・幼稚園などでの作品上演を通して、人形劇のアーティスト育成を行っている。



1:人形劇や演劇のプロを目指す長野県在住のアーティストを対象とした人形演技のためのワークショップの様子
2・3:子どものいる現場(保育園・幼稚園など)での上演



■人形劇の創作・上演による県内人材育成

松本市を拠点に、国内外各地の子どもたちに人形劇の上演活動を行っているくすのき燕が、子どもたちを対象とした作品に興味を持つ県内在住のパフォーマーとともに、人形劇の創作と上演を行いながら、その技や考え方を伝え、県内を拠点にプロとして活動できる人材育成を目指して着手した取組。

4日間のワークショップは、人形での演技に興味を持つアーティストなどが、人形演技に関する技術の基礎的な考え方を学ぶ機会となった。こうした人形劇の学びの機会は珍しく、予定人数を大幅に超えて県外の人形劇団からも受講者があった。

続いて、県内在住のパフォーマー・井川ちなみ、俳優・成田明加がダブルキャストとなり、くすのき燕と共演する新作『さんびきのこぶた』を創作。できあがった作品は、園児数の少ない保育園を中心に、県内のさまざまな場所で上演した。

生の舞台に触れる機会が少ない園児数9名の小規模園や児童養護施設での上演ができたことは今後の財産となった。また、稽古見学をきっかけに招かれた松本短期大学の研究会では、学生や地域の保育士も鑑賞し、上演後には幼児期における演劇・人形劇の意義についての話し合いがもたれるなど、交流の拡大に期待が持てた。

大人以上に敏感に反応する子どもたちへの人形劇の実演において、プロの育成には継続的な実践を通して技術面の成果や制作面での学びが必要となる。井川・成田の2人は、次年度(令和5年度)もさらに経験を積む。

子どもが少なくなり、予算などの面で文化体験を設ける余裕のない保育園等にとっては、県内でレベルの高い作品が調達できる環境があることは得難い。本事業をきっかけに子どもたちの鑑賞機会が増えていくことを期待したい。

活動内容

- ① プロを目指す長野県在住のアーティストを対象とした人形演技のためのワークショップ(全4回)
- ② 「さんびきのこぶた」創作、稽古(15日間)
- ③ 子どものいる現場(保育園・幼稚園や親子対象の公演など)での上演(計6回)
 - ・王滝保育園(1/19)
 - ・富士見保育園(1/26・27)
 - ・岡谷つつじが丘学園(2/11)
 - ・松本短期大学(2/18)
 - ・信濃ひまわり幼稚園(2/20)

コーディネーターより

県内の若手実演家を対象としたプロの人形師育成事業。人形師としてのスキル、地方でプロとして活動する術を体験から学ぶ。また、育成過程自体が、小さな保育園に通う子どもの鑑賞機会ともなる。(伊藤羊子)

伝統文化おやこ体験フェスタ

団体所在地／伊那市 MAP A-11

団体概要／

日本の伝統芸能に対する啓発・普及・発展振興を通じた地域づくりを目的に、2017年に設立。全国の学校・地域等での芸能公演や、芸能体験講座、及び指導者養成講習会などの開催を通して、伝統芸能の普及に努めている。



1:フェスタのフィナーレは参加者全員で総踊り 2:和太鼓ワークショップ
3:獅子舞ワークショップ

■地域連携による親子の伝統文化体験と継承への取組

ふるさと芸能研究所が設立当初より行ってきた、伊那市近隣の小学生を対象とした芸能体験教室や学校等での鑑賞教室が、コロナ禍の影響で実施が激減。もともと少子高齢化や過疎化などで芸能の担い手が減少傾向にある伝統文化自体も、相次ぐ祭りの中止・縮小で、継承の危機といっても過言ではない状況となっている。

こうした事態に対して、伊那市内の芸能団体(田楽座、伊那節振興協会、阿波踊り信州桜華連)と連携し、団体の出演機会を創出するとともに、子どもたちに伝統文化を伝えるためのネットワーク強化を図ることを目的に、「伊那谷地域伝統文化おやこ体験フェスタ」を実施した。

当日は親子約70名が参加。会場の伊那市生涯学習センター／ニシザワいなっせホールの複数の部屋を同時に使い、各種の芸能のワークショップ体験と鑑賞を組み合わせたプログラムがスムーズに進行した。子どもたちが伝統文化に触れ、郷土芸能に関心を持つきっかけとなる貴重な機会を提供し、これをきっかけに活動を共にするメンバーが増えた例もあるという。参加者に対して密度の濃い体験を効果的に伝えており、伊那谷のみならず他地域へ展開していく発展性もある魅力的なプログラムとなっていた。

伝統文化の体験機会を継続的につくっていくことが、次世代への文化継承のために求められている。今回、伊那市内の各芸能団体が「伝統文化を次世代につなげたい」という共通の思いで協力関係を築けたことの意味は深い。ふるさと芸能研究所と田楽座が各地で活動した経験を、地域の連携につなげ、子どもたちへの機会提供と継承の課題に取り組んでいく動きが、地域のさまざまな応援・支援を得て持続的に発展していくことを期待する。

活動内容

1/9「伝統文化おやこ体験フェスタ」
会場：伊那市生涯学習センター／ニシザワいなっせホール

第一部：

えらべるワークショップ
(和太鼓・南京玉すだれ・獅子舞・阿波踊り)

第二部：

おやこ向け伝統文化公演
出演：田楽座、伊那節振興協会、信州桜華連
・水口囃子 ・南京玉すだれ
・獅子舞 ・伊那節
・ぶちあわせ太鼓
・阿波踊り

コーディネーターより

全国各地の民俗芸能の調査・普及に取り組むふるさと芸能研究所。次世代への継承と普及という芸能団体の課題に目を向け自ら企画をつくるなど、常に民俗・伝統芸能に寄り添い続けている。(藤澤智徳)

向方掛け踊り復活事業／お盆行事の伝承

団体所在地／下伊那郡天龍村 MAP A-12

団体概要／
冬の例祭「向方お潔め祭り」(国指定重要無形民俗文化財)ほか地区の芸能を担う。継承が難しくなるなか、地域の存続にとっての芸能の重要性を鑑み、「保存会」ではなく「芸能部」との名称で活動している。



© 丸善翔太



© 丸善翔太



© 丸善翔太

1:「向方掛け踊り」復活成った直後の集合写真 2:掛け踊り
3:切り灯籠を持った区長さんを先頭に、笛と太鼓を鳴らしながら長松寺に向かう「庭入り」

■ 16年ぶりの「向方掛け踊り」復活成る！

天龍村向方地区の盆行事「向方掛け踊り」は、少子高齢化による担い手不足で2006(平成18)年を最後に途絶えていた。冬の例祭「向方お潔め祭り」は一度途絶えた後、慣習を改めたり、外部から担い手を受け入れたりなどをして、現在も継承を試みている状況にある。今回、冬の例祭協力者から話が持ち上がり、最後の笛の伝承者からの声もあって、地区住民有志と、お潔め祭り参加者を中心とした地区外の有志により、本事業が立ち上がった。

掛け踊りには13名以上の担い手が必要だが、村外・県外に散らばる有志は、6月からLINEなどを介して文書や映像などの資料を共有し、各々練習をした。7月末には向方に集まって現地での合同練習を行った。

8月14日夜、長松寺において、「向方掛け踊り」復活と成った。林業に関係していた若者や、ちょうど帰省した出身者も合流して、行事に参加することができた。地縁のない者にとっても関わりやすかったのは、地区の有志が「完璧でなくてもやってみる」という姿勢であったことが大きいようだ。

普段は寺まで来ない住民も足を運び、近年にない人の集まりとなった。なかには来年やってみたい、笛で参加してみたいなど、さまざまな反応があったという。準備から復活のプロセスで、今後の参加者にとっての参考資料や記録が収集されたことも1つの成果だといえる。より多くの住民の「やりたい」という思いが、継承の土台となる。

また、事業を推進した方が天龍村に関わったきっかけの1つは「信州つなぐラボ」(長野県の関係人口創出事業)であったという。地域課題へのさまざまな取組が混ざりつつ、祭りが継続し、地域コミュニティが存続することを願う。

活動内容

- 6/2 笛のレクチャー動画共有 (LINE及びメール)
- 6/21 過去映像共有 (LINE 及びメール)
- 6~7月 個別練習
- 合宿
7/29~31 稽古、道具修繕等
8/12~14 稽古・準備
- 8/14 掛け踊り実演
- 10月 フォトアルバム制作

「天龍つなぐラボ」note にレポート記事を掲載

<https://note.com/tenryutsunagulab/n/nb850e2b0dbc8>

コーディネーターより

地域の民俗芸能／無形文化財の継承をどのように支援するか、という問いは深い。お金の支援が一番の助けになるわけではないからだ。そのことについて信州AC始動1年目から取り組ませていただいた。考え続けたい。(野村政之)

特定非営利活動法人リベルテ

路地の開き —リベルテの福祉施設を開き多様な人との関わり合いをつくるアートプロジェクト—

団体所在地／上田市 MAP A-13

団体概要／

障がいのある人たちの「何気ない自由」や「権利」を尊重していける社会や人、関係づくりを行うことを目的に2013年に設立。障がい者福祉事業と文化事業という2つの事業を中心に据え、上田市にて活動している。



1:「花とひらく～路地をひらき、ちんどんパレード～」の様子 2:小諸駅前の停車場ガーデンで、パレードで配る花を収穫
3:アトリエ「roji」(庭)でのワークショップの様子

■アートを携え、街に福祉を織り交ぜていく

リベルテは、障がい福祉施設としてサービスを提供しながら、並行して文化事業を行っている。メンバー(通所者)へのケアをきっかけとして、地域の人たちに施設を開いていくにあたり、表現活動を通じて多様性を社会に向けて発信し、同時に「障がい」や「福祉」の意味や価値を変えたり、広げたりする試みを行っている。

今年度の事業では、①リベルテの施設の1つである「roji」の庭を「公園」と捉えて、アーティストとメンバーの協働により、表現を通して地域と交流する場としていくこと、②地域の文化団体等と協働し、「roji」から市街をパレードすることを通して、福祉分野以外の多くの人が参加し、関わられるような機会を生み出すこと、そして、③これらの活動を記録し、記録集ならびに展示会として別の形で表現し、活動を知らせるアクセスをさらに多様化することを目的としていた。

施設の庭＝「公園」が、季節ごとにさまざまな植物や虫、蝶が息づく場所となったことが、「パレードですれ違う人に花束を渡す」発想に結実し、蝶の衣装をまとめてメンバーが参加する形に発展した。花束づくりや蝶の装飾づくりなどの準備が、メンバーのみなさんの日常の創作作業となったことが、パレードへの参加意欲を引き出した。結果、たくさんのメンバーが街を歩き、個々の日常生活の景色に良い意味での変化を与えたという。

そして、ゆるいパレードの列に、支援者やメンバーだけでなく他の文化団体や地域のさまざまな関係の人たちが参加していたことが、リベルテの表現／デモンストレーションともなっていた。固定したステレオタイプな関係性を、創造的なプロセスで変化させていく。障がい福祉とアートの新たな思考／試行が重ねられている。

活動内容

① 7～10月 ワークショップ

内容：アーティストによる表現ワークショップやパレードに向けた準備(計16回)

場所：アトリエ「roji」(庭)、小諸駅前停車場ガーデンほか

② 9/25「花とひらく～路地をひらき、ちんどんパレード～」

参加者：リベルテメンバー(通所者)・一般参加者

場所：上田市内(リベルテ～犀の角)

③ 1/21～29「路地の開き 2022-23 Exhibition」展示会

場所：上田映劇

コーディネーターより

公園づくりやパレードなど、ユニークな発想でアートと福祉、街の関係を更新していくリベルテ。来年度は新たに「食堂」を開くなど、その試みにこれからも注目していきたい。(藤澤智徳)

団体概要 /
ブルーベリー畑と直売所
を拠点に、さまざまな表
現を制作する場と活動す
る人のつながりを創造す
ることを目的に活動。農
作物もアート作品も生む
「畑」として、生活や地域
と表現活動が両立・共存す
る道を模索している。



1:ブルーベリー摘み取りワークショップ 2:BBG収穫祭ケータリング
3:鈴木ユキオコンテンポラリーダンスワークショップ



■農とアート、生活と表現をめぐる冒険

わかち座は演劇・ダンスの上演活動を行うとともに、家業で営むブルーベリーガーデン黒岩（以下、BBG）をアート拠点とする活動を行う。代表の司白身さんは、サントミュージゼ（上田市交流文化芸術センター・上田市立美術館）主催のワークショップに参加するなかで、子育てと家業で一時離れていた表現活動に改めて取り組み始めた。その後、NAGANO ORGANIC AIRでのホストの経験、長野県の補助を受けて行ったダンサー・鈴木ユキオさんによるダンスワークショップ実施が契機となり、BBGで活動をする人たちが定着。本事業は、生活と表現活動の共存や、地域住民とアート関心層の交流をどう生むか、を課題として取り組んだ。

「摘み取りワークショップ」ではブルーベリーを摘みながら、栽培歴22年の黒岩和夫さんが、先祖代々の土地での家業の営みやブルーベリーの品種の違いなどを参加者に伝えた。地区住民が参加した「ブルーベリー狩り」では、直売所スタジオや仮設劇場に誘導し、アート活動を伝える展示を見て畑に向かう構成とした。

「お茶っこ劇場」では農作業の休憩＝お茶の時間に開演時刻を設定し作品を上演した。いずれも地域の農家の目線からアートとの接点を捉え直す試みである。

「BBG収穫祭」は、午前、畑で鈴木ユキオさんと参加者が身体を動かし、昼、ブルーベリーとの物々交換で得た旬の野菜やジビエ肉などを調理した料理を食べながら交流し、午後、BBGゆかりの表現者が発表を行った。「BBGが育てている価値」を多面的に捉える1日となった。

鈴木ユキオさんのダンスワークショップでは、参加者たちがそれぞれの身体と向き合い、自発的に活動を継続。BBGを活用した取組を展開させ始めており、これから一層の発展が期待される。

活動内容

会場：ブルーベリーガーデン黒岩

- ① 7/10～16
ブルーベリー摘み取りワークショップ
- ② 7/20・29、8/7
ブルーベリー狩り
- ③ 8/7
第1回BBG収穫祭
- ④ 9/15・29、10/13・27
午前10時のお茶っこ劇場
- ⑤ 11/3・26、12/11
鈴木ユキオコンテンポラリーダンスワークショップ

コーディネーターより

地域で、住民が、家業や子育てと並行して自由な表現活動をするというのは意外と難しい。周囲の目がある。その目は表現に寛容でない社会の目である。だからこの活動を応援する必要があると思う。（野村政之）

01

特定非営利活動法人油やプロジェクト

「絵とお話と音楽(令和の追分節)の美術展」+
「ソノヒカギリ美術館(美術館をテーマにした児童演劇)」

団体所在地／軽井沢町 MAP B-01

団体概要／
中山道・追分宿にある信濃追分文化磁場油や(旧油屋旅館)の保全と有効活用を目的に2012年に設立。アートやクラフトにちなんだイベントを定期的に開催し、追分宿にて文化による町おこし活動を行っている。



1:美術館をテーマにした児童演劇「ソノヒカギリ美術館」劇中の様子 2:「ソノヒカギリ美術館」に飾る作品をつくる工作ワークショップ
3:工作ワークショップで子どもたちがつくった作品の数々

■地域の文化資源を掘り起こし、次代につなげる

中山道の宿場町・追分宿に位置し、かつて堀辰雄や立原道造といった文化人が好んで利用した「油屋」。旅館廃業後、地域資源である趣きある建物を、ギャラリー、カフェ、アトリエが入る「信濃追分文化磁場油や」として、特定非営利活動法人油やプロジェクトが再生させた。2012(平成24)年の設立以来、地元作家の個展やクラフト市、また演劇の上演やコンサートなどの文化活動を積極的に行い、軽井沢町追分地区の町おこしに寄与している。

今年度は、地域の新たな文化資源の活用と、次世代への活動・鑑賞機会の提供という2つの取組を通して、シニア世代が中心的に運営している油やを、持続、継承していくきっかけづくりに着手した。

美術展&コンサート「絵とお話と音楽の美術展」では、軽井沢にちなんだ歌や小説からインスピレーションを受けたアーティストが、アート作品を制作・展示した。音楽ユニット「オノマトペル」は、追分宿に伝わる民謡「追分節」を現代風にアレンジし、『令和の追分節』として新たな形で創作。油やでライブを行うとともに、ミュージックビデオを制作しYouTubeで公開した。

児童演劇「ソノヒカギリ美術館」は、劇団風の子のレパートリー作品として全国各地で上演されてきた作品であり、油やプロジェクトの理事であるナカムラジが美術を担当。今回の事業では美術の一部を新たに地元アーティストに依頼し、上演と合わせて子どもを対象にワークショップも実施した。美術鑑賞への導きとなる内容であることから、県内の公立美術館での上演も図る。

地域の歴史・文化を示す魅力ある場を、世代を超えてどのように持続させていくか。油やで模索されている多様な試みが実を結ぶよう、支えるさまざまな人の関わりを期待したい。

活動内容

会場：信濃追分文化磁場油や

① 9/15～19
美術展&コンサート「絵とお話と音楽の美術展」

1. 民謡「追分節」や軽井沢にちなんだ小説、歌をもとにしたアート作品の制作と展示
2. 追分節を現代風にアレンジした楽曲の制作とコンサートの開催

② 9/10
児童演劇「ソノヒカギリ美術館」

1. 美術館をテーマにした児童演劇の上演及び美術作品の制作
2. 美術品をつくる子ども向けワークショップ

コーディネーターより

アートによる町おこしをキーワードに、地域に密着した活動を行ってきた油やプロジェクト。追分宿の文化的ハブとして、この地に欠かすことができないアートスペースである。(藤澤智徳)

02

クラシック音楽に親しむ講座の会

『創る・聴く・響きあう』

～信州クラシック音楽紀行コンサート 77～

団体所在地 / 上田市 MAP B-02

団体概要 /

「クラシック音楽を日常に」をテーマに、一流音楽家による室内楽の演奏と地域講座を組み合わせた演奏会を2017年から行う。聴衆の側から「聴く文化」を育て、音楽で人々の交流を生み出すことに取り組んでいる。



1:2:飯山市文化会館なちゅらでの「信州クラシック音楽紀行コンサート77」。ホール素晴らしい響きで上質なコンサートと共に味わった
3:手づくりのパンフレットを用意したアットホームなコンサート 4:「湯けむりクラシック音楽談義」交流風景

■「創る・聴く・響きあう」コンサート

上田地域で2017（平成29）年から『クラシック音楽に親しむ講座』と名付けたコンサートを3か月に1回のペースで開催し、「聴く文化」を育てることに取り組み続けている団体。上田での活動をひとつのモデルケースとし、クラシック音楽の生演奏を「聴く文化」として、長野県全体に広げる必要性を強く感じての実施となった。

まず、10月の飯山市でのコンサートに向けて、北信地域で文化活動を行っている市民へのアプローチを行った。山ノ内町に繰り返し足を運び、合唱活動や地域の歴史を学んでいる人たちなどと交流。9月には山ノ内町で2019（平成31）年から開催されている鑑賞会「レコードの楽しみ」に参加。会を主催する高田洋一さんはじめ、メンバーたちとの地域を超えた交流から大きな刺激を得た。今回初開催となった「湯けむり音楽談義」交流会では、各地で活動するキーパーソンとの交流を深め、今後の活動でも協力し合う展開となった。

■長野県全域にクラシック音楽の種を播く

10月には飯山市文化交流館なちゅらの大ホールを舞台に、質の高い演奏とプログラム、チェリスト・渡部玄一さんによる丁寧な解説で上質なコンサートを提供した。平日開催のため集客に課題はあったが、リピーターや地元愛好家が訪れるアットホームな雰囲気と、誰にでもわかりやすい解説、聴き応えのあるプログラムからは、会の活動の積み重ねや間口の広さを感じた。

今後も「湯けむりクラシック音楽談義」の定着や、地域のキーパーソンとの連携に取り組み、クラシックコンサートに親しむ機会を長野県全域に展開していきたいと考えている。

活動内容

- ① 7・8月
栄村、野沢温泉村、木島平村、飯山市、中野市、山ノ内町にて、挨拶まわりと活動のPR
- ② 8・9月
山ノ内町の音楽愛好家たちと交流
- ③ 10/18
「湯けむりクラシック音楽談義」
会場：湯田中共益会館（山ノ内町）
- ④ 10/21
「信州クラシック音楽紀行コンサート ゆるやかに聴くベートーヴェン」
チェロ・お話：渡部玄一
ピアノ：望月晶
会場：飯山市文化交流館なちゅら

コーディネーターより

「聴く文化」を広めるため、「お互いに誘い合う」という聴く人を集めていく活動を共に行っていく」ことを目的とした観客が場をつくる取組。全体の構想が興味深く応援したい。さらなる進化に期待。(伊藤羊子)

03
特定非営利活動法人劇空間夢幻工房

劇空間夢幻工房「ひかる翼」プロジェクト

団体所在地／長野市 MAP B-03

団体概要／
長野市を拠点とするプロ劇団。1999年の劇団旗揚げ以来、市民参加型演劇の上演や小学生らを対象としたキッズクラスの開講など、幅広い世代を対象に演劇を広めるための活動に取り組んでいる。



1・2:ミュージカル「チュイチュイ～左手のバイオリン弾き～」劇中より
3:乳幼児を対象とした才能開花講座「ひかる翼」チャイルドプロジェクトの様子

■持ち運びができるミュージカル

1999（平成11）年の劇団旗揚げ以来、長野市を活動拠点に県内各地で演劇公演を展開してきた劇空間夢幻工房。県内に数少ないプロの劇団として、おもに市民参加型の大規模公演を実施している。本事業では、スズキ・メソードと出逢い、障がい乗り越えて活躍するバイオリニスト・牧美花さんの半生を舞台化したミュージカル「チュイチュイ～左手のバイオリン弾き～」を創作。プロの俳優・音楽家からなる少人数編成ゆえの持ち運びの良さを生かし、2022（令和4）年度は安曇野市・伊那市を含む県内4都市を巡演したほか、2023（令和5）年度も県内3都市にて公演を行う予定。今後は劇場以外の小中学校などでの公演にも対応できるよう、作品をよりコンパクトなカタチに再創作し、上演機会の増加を図る。さまざまなニーズに柔軟に対応できるようにすることで、より安定した活動基盤の構築を目指していく。

■0歳からアートに触れられる機会を

新作ミュージカル作品の創作と並行して、乳幼児向け才能開花講座「ひかる翼」チャイルド・プロジェクトを実施。これまで劇空間夢幻工房では、5歳～小学生の子どもを対象としたキッズクラスを設け、演技力や表現力、コミュニケーション力を培う機会を提供してきた。本プロジェクトではこの試みをさらに発展させ、0歳からアートに親しむことができる環境づくりを目指し、乳幼児を対象とした表現・体操講座を開講。「さくら・さくらんぼリズム遊び」などを中心に、乳幼児とその親と一緒に楽しむ、心身の成長・育成に役立つプログラムを実施した。

活動内容

- ① 10/19、11/23、12/28、2/22
才能開花講座「ひかる翼」チャイルドプロジェクト
朋友バレエスタジオ（長野市）
- ② 11/18
ミュージカル「チュイチュイ～左手のバイオリン弾き～」公開稽古
安曇野市豊科公民館ホール
- ③ 1/21・22
ミュージカル「チュイチュイ～左手のバイオリン弾き～」安曇野公演
安曇野市豊科公民館ホール
- ④ 2/26
ミュージカル「チュイチュイ～左手のバイオリン弾き～」伊那公演
伊那市生涯学習センター「ニシザワ いなっせホール」

コーディネーターより

子どもから社会人まで幅広い層に舞台に立つ機会を提供してきた劇空間夢幻工房。子育て世代の若手メンバーとともに、活動のあり方を新たに構築する時期を迎え、次代を見据えた活動に取り組んでいる。（藤澤智徳）

団体所在地／上田市 MAP B-04

団体概要／
上田市海野町商店街で劇場、スタジオ、カフェ、ゲストハウスを備えた民間文化施設「犀の角」を運営。さまざまな表現活動や地域住民・アーティストの交流、街なかの新たな居場所づくりなどに取り組んでいる。



1:「忍者まちを走る！～街中の秘密～」 2:化石発掘体験ワークショップ



活動内容

① 8/6

海野町七夕劇場／Divadlo501の
人形劇『きんいろの髪のお姫さま』
上演

② 10/12～16

ひらけ！まちは遊ビバ！

- ・一般社団法人あそび心 BASE
アフタフ・バーバン信州の演劇
ワークショップ
- ・人形芝居燕屋の人形劇
「グリムのかぼん」
- ・一般社団法人あそび心 BASE
アフタフ・バーバン信州
「忍者まちを走る！～街中の秘密～」

③ 11/16

人形芝居燕屋のワークショップ
「くつ下人形を動かしてみよう」

④ 2/19

竜野秀一さんによる化石発掘体験
ワークショップ

⑤ 2/21

月影瞳さんによる演劇と歌のワー
クショップ

■街なかを子どもたちが動き、人々が出逢い直す

学校の文化部活動の地域移行に向けた文化庁委託事業「地域文化倶楽部創設支援事業」をきっかけに、シアター&アーツうえだでは、2021(令和3)年から「うえだイロイロ倶楽部」に取り組んでいる。これは、平日放課後に子どもたちが犀の角へ集い、それぞれが取り組みたい文化活動を行うものだ。本事業ではそこから派生したプログラムとして、上田市の中心商店街のさまざまな場所を活用し、街なか全体を「劇場」ととらえて、子どもたちが活動するスペシャル企画を行った。

海野町商店街の8月の恒例・七夕祭りに合わせた企画「天の川劇場」では、事前の七夕飾りづくりを、商店主が子どもたちに教えながら一緒に行った。10月、子どもたちが忍者を演じながら街なかを駆け巡る「忍者まちを走る！」では、近隣の店舗やホテルから活動場所を提供していただきプログラムを実行できた。

劇場から街なかに飛び出して本事業を実施するために、地域に暮らす商店主や自治体の人たちと協力関係を築き、顔見知り程度だった人々が知り合いになって、活動の幅が広がった。コロナ禍で各店舗もそれぞれ影響を受けており、利用機会が減っていた貸しスペースを会場とすることが支え合いにつながったり、子どもたちが商店街に飛び込むことで、子どもと関わりを持ちたかった店にとって良い機会となったりもしている。

子どもをきっかけに、商店街が新しいつながりで出逢い直す。同時に、さまざまな人が関わりながら、街なかに子どもたちの居場所、安心できる場所が広がっていく。

本事業と並行して「うえだイロイロ倶楽部」の活動資金の寄附募集が行われたが、その際にも、今回のつながりから新たな協力が得られたという。多様な人々が支え合う環境づくりが始まっている。

コーディネーターより

なんとなく大人の間では区別が生まれてしまう、旧住民/新参者/移住者、年代…などの距離を子どもは突破する。文化芸術の取組を多世代で行うことの意味を改めて教わったような気がします。(野村政之)

05

まつもとフィルムコモンズ

8mmフィルムの保存・活用を通じたコミュニティ再生と多世代が参加する地域映画づくり

団体所在地／松本市 MAP B-05

団体概要／

2022年、13名の有志により設立。松本市民から8mmフィルムを集めてデジタル化し、地域映画の制作と上映会を行う。鑑賞者同士が対話する機会を大切にする事で世代間交流を促すなど、地域創造にも貢献する。



1:松本市の山山食堂で開かれた8mm映写室・上映会後の座談会

2:音楽録音を行う「3日満月」の権頭真由さん、佐藤公哉さんと「みみをすます音楽教室」の子どもたち



活動内容

① 8mmフィルムの収集・テレシネ
6～12月

② 8mm映写室・上映会
6/4・19・25、7/18～22、8/15・20・25、
9/19、11/20・26

上映作品：地域映画『竹田ん宝もん』『よみがえる安曇野1』『笠間郷想曲』『浦賀の映画学校』『斜里 昭和ノ映写室』『斜里 昭和ノ映写室2』、山崎貴監督『GROLY』
会場：松本深呼吸（4回）、山山食堂（3回）、常念、本郷歴史研究会

③ 「READYFOR」サイトにてクラウドファンディング 7・8月

④ 地域映画『まつもと日和』制作
・9月～ フィルム提供者への取材、音楽録音
・10月 ロトスコープ制作（清水中学校美術部）
・11～2月 編集（信州大学学生ほか）
・1/22 予告編公開
・2/25・26 完成上映会（5回）、松本市中央公民館 Mウイング

⑤ 公式Webサイト公開 12/11
<https://matsumoto8mm.com/>

■過去・現在・未来をつなぐ映画づくり

松本市在住の三好大輔監督は、国内各地域で家庭に眠る8mmフィルムを収集・デジタル化し「地域映画」を制作する活動を行ってきた。2022（令和4）年から松本市内で、各地の地域映画を上映する会「8mm映写室」を開始、子どもから90代まで世代を超えて人々が対話する場となっている。この上映会に参加する市民を中心に「まつもとフィルムコモンズ」が結成され、今年度、松本で1本目となる地域映画づくりを行った。

呼びかけを行った結果、1940～80年代に撮影された8mmフィルム345本を収集、内183本をデジタル化した。映画監督の山崎貴さんが中学時代に撮影し、行方不明になっていた短編映画のフィルムが発見されるという思いがけない成果もあった。並行して行ったクラウドファンディングでは430万円を集めた。

フィルム提供者と家族へのインタビュー取材・編集には学生が参加。子どもの歌声や市民が奏でる音を多数取り入れ、松本市を拠点に活動するデュオ・3日満月が音楽を担当した。映画のエンディングは、信州大学の学生が発掘した松本市歌と、清水中学校美術部がデザイナーの太田真紀さんと制作したロトスコープで構成。2月25・26日の地域映画『まつもと日和』完成上映会では950人がこの映画を鑑賞し、熱気に包まれた。

鑑賞し、学び合い、創造する。実に多様な人々と「共創」することができる類稀な取組となっている。収集・デジタル化から利活用を通して、地域の歴史文化を省察する機会、世代を超えた交流や地域の活性化・愛着の醸成といった効果にもつながる。

今後、より多くの人に『まつもと日和』の鑑賞機会が届けられ、さらなる収集と2作目の映画制作に向けて、松本市、地域の企業・個人など幅広い支援者・協力者が得られること、優れた作品に結実することを願う。

コーディネーターより

消失する可能性の高い家庭用8mmフィルムを救い保存するとともに、上映会を通して世代を超えた交流の素材として活用していく取組。民俗学、文化財保存、対話型鑑賞への波及に期待。（伊藤羊子）

『まるっとみんなで軽井沢映画祭（仮）』プレ企画

～地域コーディネーターの育成、ワークショップ&報告会を通じた、地域で福祉・教育・芸術をつなぐアートプラットフォームづくり事業

団体所在地／軽井沢町 MAP B-06

団体概要／
福祉・教育分野と芸術文化表現を横断してつなげ、地域における文化芸術の発展を目指す。2023年から地域に根づく多様な人々と協働した映画祭を開催するため、地域ネットワークの構築や掘り起こしに取り組んでいる。



1:「まるっとみんなの調査団」キックオフミーティング 2:軽井沢病院院長・稲葉俊郎さんへのヒアリング



活動内容

- ・7月 メンバー公募
- ・9/18 キックオフミーティング
- ・10/14 軽井沢病院院長・稲葉俊郎さんへのヒアリング★
- ・11/26 NPO 法人リベルテ・武捨和貴さん&佃梓さん、犀の角・荒井洋文さん&伊藤茶色さんへのヒアリング（上田市）
- ・12/5 インターナショナル・スクール「UWC ISAK」の学生へのヒアリング★
- ・12/11 ほっちのロッヂ／にじいろドクターズ・坂井雄貴さんへのヒアリング★
- ・1/14・21 岩井秀人さん、梅原徹さん、佐藤拓道さんによる演劇・音楽ワークショップ
- ・1/22、2/5 企画会議
- ・2/18 企画報告会
- ・2/25・26 「劇場をつくるラボ」上映会

★「THEATRE for ALL」に記事を掲載
<https://theatreforall.net/feature/>

コーディネーターより

軽井沢町のローカルにある多様性が可視化され、新たな出逢いが生まれる熱気を帯びた報告会となった。Think globally, act locally … 地域から地域を越える取組が始まる。（野村政之）

■軽井沢の多様性を映し出す、インクルーシブな映画祭へ

2023（令和5）年に軽井沢町周辺エリアで多様な人々の参加を受け入れる映画祭の開催を目指し、地域のリサーチ、企画立案、インクルージョンについての学び合いを行い、開催に向けネットワークを構築した。

まず最初に、リサーチや映画祭の準備を行う「まるっとみんなの調査団」のメンバーを公募。おもに東信地域に在住する10代から60代の参加者約20名が集まった。キックオフの会では、代表の中村茜さんが近年取り組む「THEATRE for ALL」（舞台芸術・映画・メディア芸術などの作品を、字幕や音声ガイドなどの情報保障を施して配信するプラットフォーム）と「まるっとみんなで映画祭」について紹介。その背景として、私たちの社会で障がい／バリアに対し、アクセシビリティの確保が十分なされていない現状を共有した。

それから約半年、調査団のメンバーは東信地域でインクルーシブな活動をしている団体にヒアリングを実施。それを踏まえて5つのチームに分かれて企画案を練った。

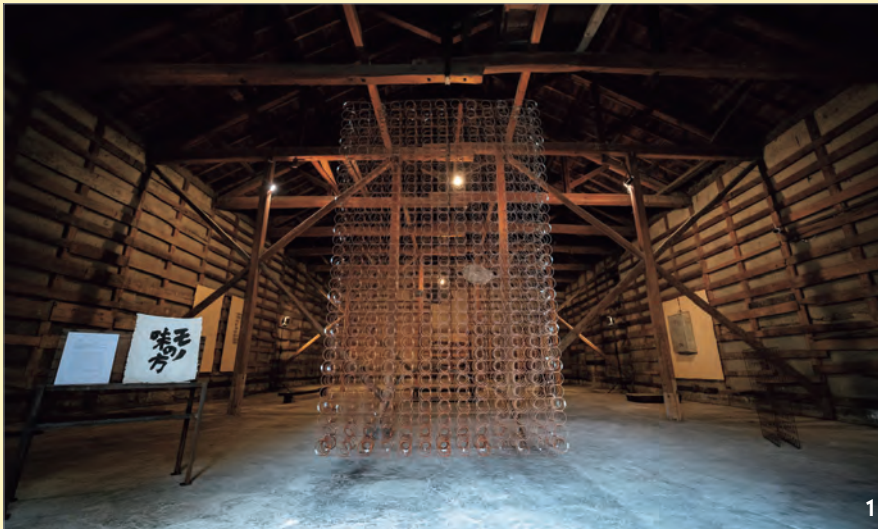
2月18日、企画報告会として各チームが令和5年度に行う映画祭の企画案を発表するとともに、東信地域でインクルーシブな映画祭と関係が深い方によるシンポジウムを開催した。登壇した調査団メンバーとインターナショナル・スクール「UWC ISAK」から参加した学生は、それぞれLGBTQや障がい福祉について独自の視点を持ち、異なる世代から地域、教育、経済格差、多文化共生などの問題意識を提示。性や世代、家庭環境などの多様性も意識された企画が提案された。

シンポジウムには軽井沢町の地域活動、文化芸術などに関わる住民のみなさんも出席。ダイバーシティとインクルーシブをキーワードに、新たな地域コミュニティ形成を予感させる時間となった。

捨てる神あれば拾う神あり @ トビチ美術館

団体所在地 / 辰野町 MAP B-07

団体概要 / 「未来はワクワクするもの」「〇の未来にワクワクする人を増やす」をミッションに、辰野町で企画・デザイン・建築を使って、今より生きやすい暮らしをつくるために活動するまちづくり会社。



1: @旧安藤木材(新井風馬) 2: @ブラザーマシン1階(協力:千田泰広) 3: @gallery tooo 2階(Karine Debouzie)

■空き家が美術館、古物を作品にアップサイクル

辰野町の下辰野商店街界隈の空き家・空き店舗を使用し、エリア全体を美術館ととらえる「トビチ美術館」の取組。公募を含むアーティスト8組が滞在制作を行い、空き家から出た古道具等の「空き家の幸」や、家屋解体中に出る石膏ボード等の不要物を用いて、空間芸術／インスタレーションを創作した。

長期間アーティストがまちに滞在したことにより、住民や来訪者と直接交流が生まれ、アートを身近に感じることに繋がった。公募でフランスからアーティストを受け入れたことで、より高度な対応も経験し、国際仕様の運営を目指すきっかけもなった。また、国内外の美術館等から余剰のアートブックの寄贈を募り、ライブラリーを設けた。辰野美術館の展覧会と期間を重ね、まちの中に回遊性をもたせていた。

■まちづくり会社が取組む“アート・文化”

展示会場として利用したことで空き家オーナーの意識に変化が生まれ、賃貸・売買を含め物件の継続的な利活用を考えるきっかけになっているほか、実際に借り手が見つかった物件もあり、本事業が商店街再生にも寄与している。まちづくり会社として、アートイベント開催が最終目的ではなく、現在の空き物件をリソースとしてとらえ、既成概念にとらわれない新たな気づきを得て、地域や商店街をリブランディングしていくためにアートに取り組んでいる。

今後は、より長い期間アーティストが滞在し、地域の仕事で働きながら日常の暮らしに近づいていく取組の構想もある。明確なビジョンを持ち、持続的・循環的な地域づくりとアートの関係について示唆に富んだアイデアが多い。さらなる発展性が望まれる。

活動内容

- 7/1 地元・招待アーティスト決定
- 8/1 公募アーティスト募集
- 9/1 公募アーティスト決定
- 9/28 アーティスト滞在制作開始

出展アーティスト：
新井風馬、一瀬大智、金井一記
久場雄太、島田佳樹、千田泰広
村上結輝、Debouzie Karine
高相拓己

10/15 ~ 11/27

「捨てる神あれば、拾う神あり展 at トビチ美術館 2022」

10/26・11/26

アーティストトークイベント開催

2/24 アーカイブブック完成

コーディネーターより

まちづくりとアートが並走しながら、暮らしている人の気持ちをちょっとずつ豊かにしている。こうして居心地良いまちができていくんだとワクワクがとまらない。(佐久間圭子)

連携・協働プログラム

連携・協働プログラムは、信州の多様な文化芸術を多様な主体が支える環境をつくっていくために、事業における連携を図っていく取組です。長野県の文化芸術に関わる課題を共有する団体と、共通の目的・目標を見据えて取り組んでいきます。

【令和4年度の取組】

■信州大学人文学部との連携事業

- ・哲学・芸術論コースでの講義(4・7月:アーツカウンシルについて等)。
- ・シンビズム2022における美術系のゼミとの連携(写真1)。
- ・NAGANO ORGANIC AIR 研修プログラムに学生が参加。
- ・連携フォーラム「気候変動時代、未来を創造するアートアクション」開催(3月1日)。(P36参照)

■公益財団法人八十二文化財団との協働

- ・シンビズム2022の共催。ギャラリー 82を会場に事業運営において連携(写真1)。
- ・同財団主催の助成事業の支援等に関する情報交換。
- ・民俗芸能の保存継承の支援に関する連携事業の検討。

■公益財団法人長野県みらい基金との協働

- ・団体への支援・資金調達における協力。新たな連携の方法についての検討(写真2)。
- ・「信州の特色ある学び」応援事業への協力。

■南信州民俗芸能継承推進協議会との協働

- ・民俗芸能の保存継承の支援に関する連携事業の検討。
- ・第1回南信州民俗芸能フェスティバル(2月26日開催)への協力(写真3)。



(写真1)



(写真2)



写真提供：南信州民俗芸能継承推進協議会

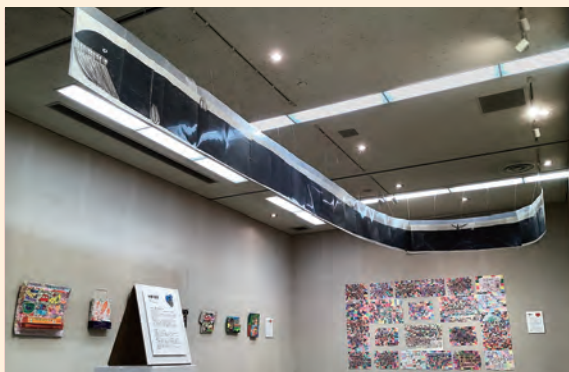
(写真3)

社会包摂(インクルーシブ)プログラム

障がい者福祉、高齢者福祉、多文化共生などに関わる文化芸術活動を、課題を共有する団体等と共同して取り組みます。令和4年度は、信州アーツカウンシルの始動と時期を並行して社会福祉法人長野県社会福祉事業団に設立された「ザワメキサポートセンター」(長野県障がい者芸術文化活動支援センター)との協働を推進しました。

【令和4年度の取組】

- ・連携会議を毎月開催し、情報共有と意見交換。
- ・「ザワメキアート展 2022 スキスギテストキ。」を共催。広報等の支援(写真4)。
- ・ザワメキ・キャラバン2022「キララ☆展」でコーディネーターによるワークショップを行い、展覧会設営をサポート。



ザワメキアート展2022 スキスギテストキ。(写真4)

NAGANO ORGANIC AIR

「NAGANO ORGANIC AIR」は、さまざまなジャンルで活躍するアーティストが、長野県内の各地域に滞在し、創造活動を行うアーティスト・イン・レジデンス（AIR）の取組です。公立文化施設や地域の文化芸術団体、教育委員会などがホストとなり、地域での創作のプロセスをコーディネートしながら、アーティストとの双方向的な協働を試みる取組を、2021年度から行なっています。「ORGANIC =有機的」をキーワードに、アーティストの創作意欲を刺激するローカルな営みとの出逢いにフォーカスした滞在制作を実施。2022年度は長野県内8郡市町村にて8組11名のアーティストが、各地の自然や風土、食や歴史文化をさまざまに反映した、地域色ゆたかな活動を展開しました。



例えば、栄村に滞在した行橋智彦さんは、村内に湧く泉質の異なる温泉と、野山の植物を採集し染物作品を制作、冬の雪の中で展示しました。また、小海町に滞在した音楽家の蓮沼執太さんは、地元中学生と協働して千曲川とその支流のフィールドレコーディングを行い、川の流れと海にまつわるサウンドインスタレーション作品の制作を行いました。他にも、諏訪市の御柱祭や大町市の若一王子祭りなどの祭事への立会いや、木曾踊りや新野の盆踊りなどの体験、八ヶ岳登山、伝統食づくりなど、アーティストの滞在を通して「アート」と「地域」それぞれが持つ可能性がさまざまな形で立ち上がってきているのを感じることができました。

NAGANO ORGANIC AIRでは、これからも長野県におけるアートの創造活動の可能性を育み、地域に有機的に広げ、持続的な環境づくりにつなげていきます。

「NAGANO ORGANIC AIR2022」

実施期間：2022年4月～2023年3月

実施場所：長野県栄村、長野市、大町市、安曇野市、小海町、茅野市、木曾郡、阿南町 ほか

主催：信州アーツカウンシル（一般財団法人長野県文化振興事業団）、長野県
令和四年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業

企画制作：信州アーツカウンシル（一般財団法人長野県文化振興事業団）

〔津村卓、野村政之、伊藤羊子、佐久間圭子、藤澤智徳、峯村高広、宮本隆希、保谷有美〕

アシスタント・コーディネーター：

一般社団法人シアター＆アーツうえだ（加藤亜弓、村上梓）、鈴木彩華、前田斜め、水橋絵美

【茅野地域】

主催：茅野市民館指定管理者 株式会社地域文化創造

共催：信州アーツカウンシル（一般財団法人長野県文化振興事業団）、長野県

助成：一般財団法人地域創造

【安曇野地域】

主催：安曇野市教育委員会、信州アーツカウンシル（一般財団法人長野県文化振興事業団）、長野県

PROJECT

2022年度
実施プロジェクト



① 雪に染まる冬の支度

ARTIST 行橋智彦 (旅する服屋さんメイドイン)

HOST 栄村公民館

日本有数の豪雪地帯である栄村に、温泉染作家の行橋智彦が滞在。栄村の温泉を使って羊毛を染め、キノコのオブジェを制作。雪のかまくらにて展示した。



② たまに集まるナガノなんでもバンド

ARTIST 額田大志

HOST R-DEPOT キャンププロジェクト

作曲家・演出家の額田大志が、一般公募による参加者とともに18人の大所帯ポップバンドを結成。長野市のまちづくりの新拠点・R-DEPOTにてライブを実施した。

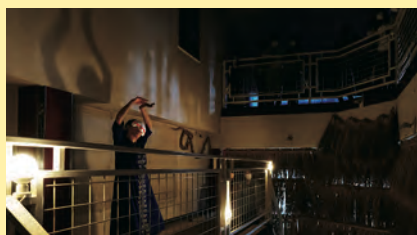


Photo by 安徳希仁

③ ふしぎうぶすなレジデンスー@信濃大町 STRANGER THAN PHENOMENON

ARTIST 横山彰乃

HOST 信濃大町アーティスト・イン・レジデンス

ダンサー・振付家の横山彰乃が出身地である大町市に滞在。幼少期に訪れ印象に残っていた商店街の空き店舗でダンスパフォーマンスを披露した。



④ 踊るからだでみつめる安曇野のくらし

ARTIST ...I[アマリイチ]

HOST 安曇野市教育委員会

ダンスユニット・...I[アマリイチ]による安曇野市滞在2年目のプロジェクト。「アーティスト・イン・スクール」など小中学校で滞在制作を実施した。



⑤ Unseen Sea

ARTIST 蓮沼執太

HOST 小海町高原美術館

日本一長い川・千曲川(信濃川)の源流部に位置し、「海」をその名に持つ小海町に音楽家の蓮沼執太が滞在。海・川・湖など水環境に着目した制作を行った。



⑥ みちのちのダンススケープ

ARTIST 森下真樹、石川直樹

HOST 茅野市民館

ダンサー・振付家の森下真樹と写真家の石川直樹による3ヵ年プロジェクトの2年目。御柱祭や八ヶ岳登山などのリサーチを実施、2月にはその成果発表を行った。



⑦ 木曽めぐるナンチャラホーイ

ARTIST 私道かび、舒達

HOST 木曽AIRネットワーク

公募により選出された劇作家・演出家の私道かびと美術家の舒達が木曽郡全域にて滞在制作を実施。木曽の「祭り」に着目したリサーチ・作品発表を行った。



Photo by 金田誠

⑧ 短編演劇『新野物語』ツアー2022

ARTIST 山田百次

HOST 新野だら実行委員会

2021年に引き続き劇作家・俳優の山田百次が滞在。阿南町の伝統芸能「新野の盆踊り」を題材とした演劇『新野物語』を阿南町・売木村で上演した。



【短期滞在研修プログラム2022】

生きることとアートの呼吸

～ Breathe New Life

一般公募による参加者5名と信州大学の学部生2名を対象とした5日間の研修プログラム。信州アーツカウンシルの助成事業や県内のアート拠点を訪問した。

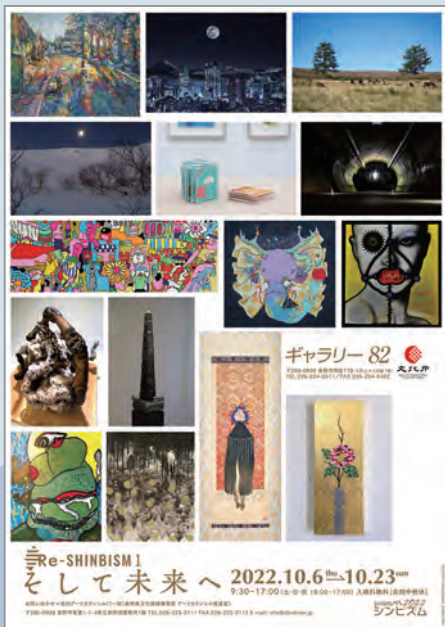
● 詳細な活動の様子ならびに「NAGANO ORGANIC AIR 2022ドキュメントブック」は、Webサイト(<https://noa.nagano.jp/>)でご覧いただけます。

シンビズム 2022

【シンビズム】

県内の学芸員がネットワークを形成し、県ゆかりの作家を選定して、共同企画による美術展を開催。シンビズムには「信州の美術の主義」の他、新しい美術、真の美術、親しい美術等の意味を込めています。

県内各地の美術館・博物館の学芸員等が公立・民間等の所属の別なく集い、ネットワークを形成し、長野県ゆかりの作家を選定する美術展「シンビズム」の開催や、対話を通じた鑑賞の取り組みを行いました。



オープニングイベント

■ シンビズム 2022 「Re-SHINBISM1 そして未来へ」 の開催

シンビズム展の原点である「シンビズム1」の作家に焦点をあて、県内4ブロックで同時開催した作家の作品を長野市において一堂に会することで、これまでの5年間の歩みを振り返り、作家たちがいかに進化し、現在どのような作品を手掛けているか、今を見つめる企画展とした。

会期：令和4年10月6日（木）～23日（日）

場所：ギャラリー 82（長野市岡田178-13）

出品作家：15名

（小林冴子／油画等、サム・プリチャード／写真、阿部祐己／写真、高橋広平／写真、常田泰由／版画、千田泰広／インスタレーション、森泉智哉／絵画、藤沢まゆ／染色、ナカムラマサ首／ステンドグラス、小野寺英克／彫刻、角居康宏／金属造形、中村恭子／日本画、深沢尚宏／絵画・グラフィックス、鮎万里絵／絵画、矢島史織／日本画）



■ 対話を通じた鑑賞プログラムの 企画・実施

県民の創造的な学びの促進を図るため、対話を通じた作品鑑賞（対話鑑賞）の取り組みを行った。

① 東御市

- ・ 6月23日（木）：シンビズムワーキンググループ教育普及班勉強会
- ・ 11月4日（金）：東御市内小学校における対話鑑賞研修会、朝鑑賞のレクチャーの実施
- ・ 11月14日（月）：社会福祉協議会と連携した対話鑑賞事業への参加・協力
- ・ 11月29日（火）：東御市内の小学校教諭を対象とした研修への参加・協力



持田敦子《Steps》

② 山ノ内町（山ノ内町立志賀高原ロマン美術館）

- ・ 3月18日（土）：持田敦子《Steps》展示とあわせて、対話鑑賞プログラムを実施



「Re-SHINBISM1 そして未来へ」展

- ◇主催:信州アーツカウンシル((一財)長野県文化振興事業団)、長野県
- ◇共催:(公財)八十二文化財団
- ◇助成:令和四年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業
- ◇顧問:松本 透(一般財団法人長野県文化振興事業団理事、長野県立美術館長)
- ◇運営アドバイザー:
石川利江(ISHIKAWA地域文化企画室代表)

- ◇企画・構成:信州ミュージアム・ネットワーク「シンビズム2022」ワーキンググループ
- 名取淳一・中嶋実(小海町高原美術館)、工藤美幸(佐久市)、佐藤聡史(丸山晚霞記念館)、大竹永明(東御市梅野記念絵画館・ふれあい館)、由井はる奈・伊能あずさ(佐久市立近代美術館)、鷹野雪菜、宮下真美(軽井沢ニューアートミュージアム)、清水雄・山極佳子(上田市立美術館)、加藤泰子(心の花美術館 in 上田)、山岸吉郎・河西見佳(イルフ童画館)、丸山綾(諏訪市教育委員会)、前田忠史・中田麻衣子(茅野市美術館)、赤羽義洋(アンフォルメル中川村美術

館)、小松由以(信州高遠美術館)、武井敏((公財)碌山美術館)、三澤新弥・塩原理絵子(安曇野市教育委員会)、富永淳子(安曇野高橋節郎記念美術館)、伊藤幸穂(木曾町教育委員会)、梨本有見(須坂版画美術館)、布谷理恵(千曲市アートまちかど)、田中新十郎(田中本家博物館)、阿部澄夫((一社)一本木公園バラの会 信州中野銅石版画ミュージアム)、鈴木一史(山ノ内町立志賀高原ロマン美術館)、矢ヶ崎結花、小林宏子(前中野市立博物館)、小林ゆり香(葦崎大村美術館)、伊藤羊子((一財)長野県文化振興事業団)

◇来場者数:812名

【会期中のイベント】

- ・10月8日(土):出品作家、学芸員等によるギャラリートークを実施(オープニングイベント):61名参加
- ・10月14日(金):対話鑑賞プログラムの研修会の開催(シンビズムのワーキンググループが参加):13名参加
- ・信州大学の学生や一般県民を対象とした対話鑑賞プログラム体験会の開催:35名参加

③ウェブ講座

- ・2023年1月8日(日):公益財団法人 日本美術教育連合主催 第2回「造形・美術教育力養成講座」招聘

「コミュニケーションを生み出す新たな取り組み—『シンビズム』—長野県の美術館連携からの提案」講演およびワークショップ・ファシリテーター6名をシンビズムワーキンググループメンバーが務める。



持田敦子《Steps》
展示会場での対話
鑑賞プログラム

■ ワーキンググループ会議の開催

学芸員同士のネットワークの強化や、シンビズムの持続的な発展に向けた協働体制を構築するため、ワーキンググループ会議を開催した。

■ 各種情報発信

専用ホームページやSNS (Facebook)において、随時情報発信を行った。
チラシやポスターの制作、新聞広告、TVCMによるシンビズム展のPRを行った。

[コラム]協働・共創する地域アーツカウンスル

アーツカウンスルとは

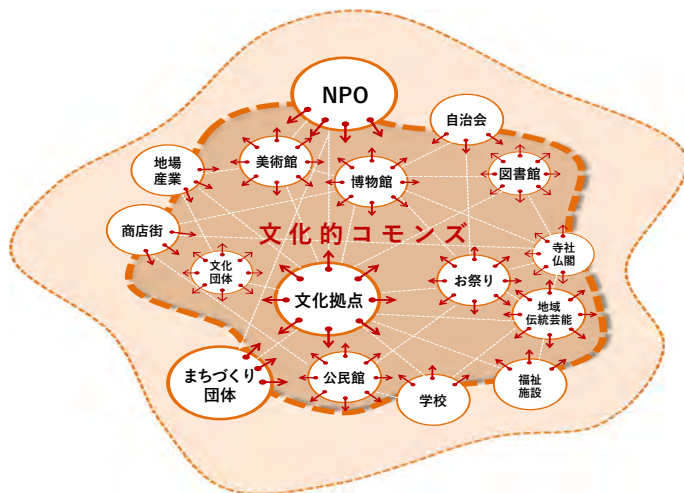
「アーツカウンスル」という言葉が耳慣れない方も多いかと思います。イギリスで第二次世界大戦後に設立されたもので、「芸術文化に対する助成を基軸に、政府と一定の距離を保ちながら、文化政策の執行を担う専門機関」(吉本光宏、文化庁月報No.517、2011年)と説明されます。戦前のナチス・ドイツが、芸術や文化を国のプロパガンダに政治利用し、そのよし悪しまで決めていたことへの反省と批判が意識されています。

欧米諸国やシンガポール、韓国など、世界各国で設置されてきましたが、日本では2007(平成19)年の「アーツコミッション・ヨコハマ」(横浜市)を最初に、2012(平成24)年度の東京都、沖縄県での設立、その後、日本芸術文化振興会が「日本版アーツカウンスル」として整備されていくなどの流れで広まってきました。行政が関わる地域でのアートプロジェクトや芸術祭の高まりなどを背景に、現在では全国約30ほどの地域で設立または準備活動が行われています。

アーツカウンスルには、地域によってあり方が変化するという特徴があります。風土や歴史が異なり、そこから生まれてくる地域文化も違ってきます。地域のアーツカウンスルは「自分たちの地域文化にはどんなポテンシャルや価値があるのか」を見つめ、改めて育てなおしたり、新たな発想で発展させたりする、「地域の文化的自治を高める」取組になります。

文化的 commons のイメージ図

出典：調査研究報告書「災後における地域の公立文化施設の役割に関する調査研究－文化的 commons の形成に向けて－」地域創造レター 238号、一般財団法人地域創造、2014年



長野県では、まさに「学びと自治」を掲げる県の総合5か年計画を土台に、長野県文化芸術振興計画に基づいて、2018(平成30)年度以降、文化施策の推進体制の整備として準備が進められてきました。専門スタッフを中心に、文化芸術分野の活動を活性化し、県と協力しあいながらも、県行政の直接実施では実現できない、文化芸術の環境づくりに取り組んでいきます。

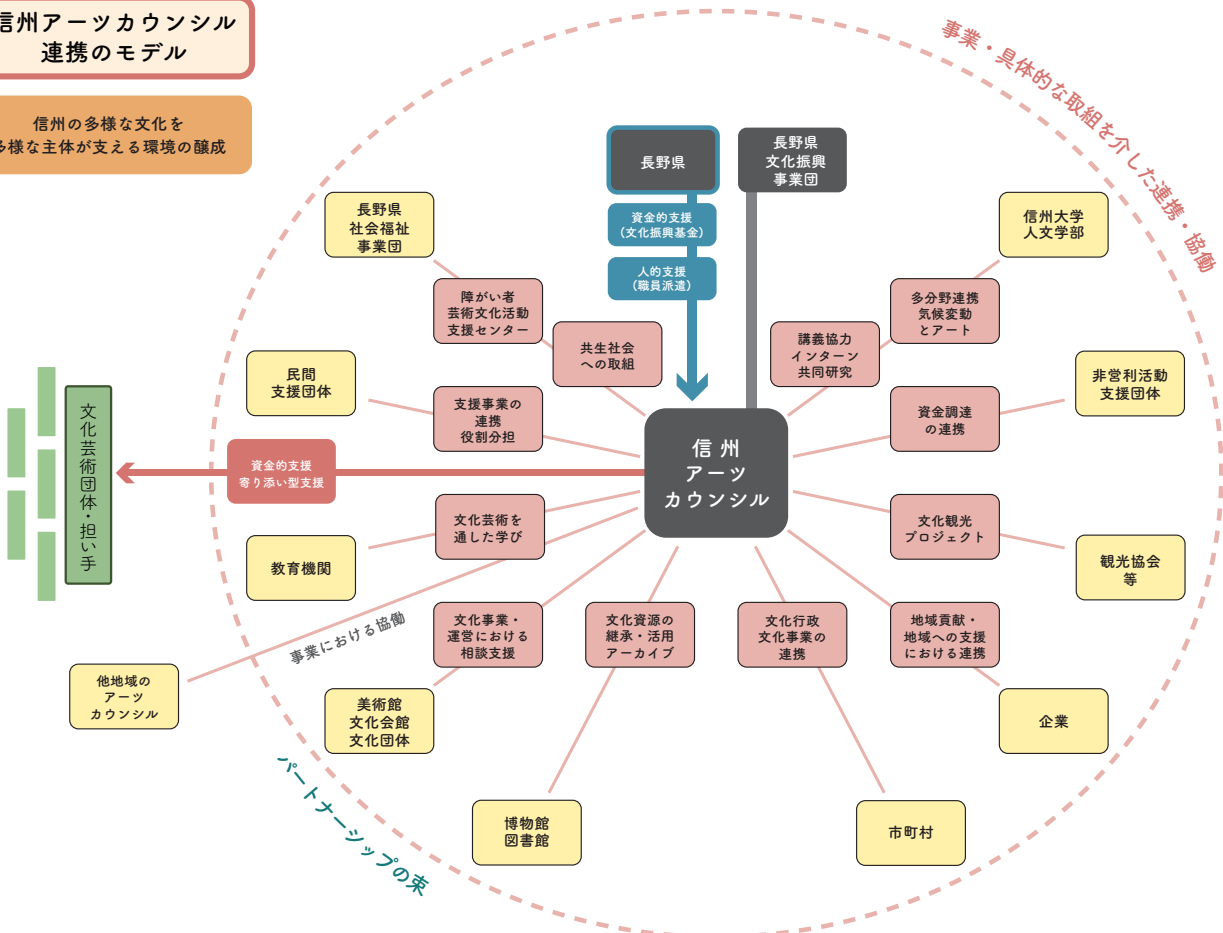
文化芸術を媒介とした地域の共創に向けて

現代の社会において、文化芸術が果たしている役割は非常に多面的です。教育、福祉、観光、まちづくり、居場所づくりなど、さまざまな分野・トピックで、文化芸術の持っているポテンシャルが、必要とされています。そのことは信州アーツカウンスルの助成採択事業の多様さからも受け取れますし、2017(平成29)年の文化芸術基本法の改正において以下の条文が加えられたことをみても、重要性は明らかだと思えます。

「文化芸術に関する施策の推進に当たっては、文化芸術により生み出される様々な価値を文化芸術の継承、発展及び創造に活用することが重要であることに鑑み、文化芸術の固有の意義と価値を尊重しつつ、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の各関連分野における施策との有機的な連携が図られるよう配慮されなければならない。」(文化芸術基本法 第二条10)

信州アーツカウンシル 連携のモデル

信州の多様な文化を
多様な主体が支える環境の醸成



その文化芸術を担い、支え、継承しているのは誰なのか、同時に、文化芸術の恩恵を得ている、文化芸術のお世話になっているのは誰なのか。そうした視点で見た時に、「信州の多様な文化芸術を多様な主体が支える」という考え方が肝になってきます。

信州アーツカウンシルの連携のモデルと「文化的コモンズ」の考え方

信州アーツカウンシルでは、民間の文化芸術団体を支援するうえで、連携・協働プログラム他のかたちで、目的を共有する異分野の機関や団体等との連携を広げていきたいと考えています。文化芸術を媒介に、さまざまな分野の人たちと、いまの社会課題に働きかけ、未来の社会を共に創造していく、そうした構えをとっていきます。

その時にイメージする文化芸術のあり方が「文化的コモンズ」です。文化芸術というのは、社会のなかのさまざまな場所に、さまざまなかたちで浸透しています。遍在しています。学校で扱われる美術、音楽、文学などもありますし、演劇やダンスなどの身体を使った表現、そして地域の伝承文化もあります。食文化や、季節にあわせた生活習慣・生活様式な

ども含まれます。決して、専門家だけが担っているわけではなく、自分では文化の担い手だと自覚していない人も担っています。文化は誰もが共同で担っている知恵や共有財であり、芸術は誰に対しても開かれた創造の機会なのです。

そう考えてみれば、地域文化は地域社会と離れてあるものではなく、社会そのものの母体といってもよい環境・生態系だといえます。豊かな田畑や山林から豊かな富が得られるように、文化的な環境を良くしていくことで社会に生きる人たちに活気が溢れてくると思います。

いま、コロナ禍で人々の距離が離れてしまい、バラバラになってしまった部分を、改めてつなぎ、包み、支える役割を、文化が自ずと果たしているようにも思います。

信州アーツカウンシルは、文化芸術や担い手の多様性を意識して、連携のハブになるとともに、地域の持続的な発展に取り組んでいきたいと思っています。

野村政之 (ゼネラルコーディネーター)

信州で活動しませんか? 芸能・文化・アート×移住定住・関係人口の取組をご紹介

～阿南町・新野だら実行委員会 × 信州アーツカウンシル



地域文化と移住や関係人口のつながりについてご紹介するイベントを、長野県企画振興部信州暮らし推進課の共催で開催しました。下伊那郡阿南町新野にフォーカスし、NAGANO ORGANIC AIRの取組、ホストの新野だら実行委員会さんが行うイベント、新野から☆元気にしまい会による移住や山村留学の支援のお話に、新野の盆踊り・雪祭り(笛)の実演を添えた楽しい会になりました。

ちょうど、新野の盆踊りのユネスコ無形文化遺産「風流踊」登録決定直後でもあり、多くの方に関心を寄せていただきました。今後も信州アーツカウンシルの出前イベントを行っていききたいと思います。

信州アーツカウンシル×信州大学人文学部連携フォーラム 2023

「気候変動時代、未来を創造するアート・アクション ～循環型で文化的な暮らしの創造に向けて～」

信州アーツカウンシルと信州大学人文学部の連携フォーラムを3月1日に開催。オンライン視聴を含め90名が参加しました。まず長野県環境保全研究所の浜田崇さん、インディペンデント・キュレーターのロジャー・マクドナルドさんが講演を行いました。浜田さんからは、長野県における温暖化の実情を、松本市の平均気温の上昇や、桜の開花、秋の紅葉時期の変化などのデータを用いて科学的に解説いただきました。また、ロジャーさんからは、アイスランドの氷河の葬儀や、英国のテート美術館の取組などの例を挙げながら、気候危機に対する世界のアートの反応についてお話いただきました。

続いて参加者によるグループ・ディスカッションを行い、その後、4名の登壇者によるトークセッションとなりました。信州大学の金井直さんからは「日本文化では環境問題は理系寄りなイメージがあるが、だからこそ人文学部や文化芸術の観点から関わる意味が感じられる」、また特定非営利活動法人アイダオ／上田映劇の直井恵さんからは、東南アジアの山岳民族の若者と、地域の民話から演劇を創作し環境活動・海外交流を行った事例をご紹介いただきました。信州アーツカウンシル・野村政之コーディネーターからは、今後、気候変動とアートの新たな取組「Shinshu Arts-Climate Camp」を行うことが告げられました。

会の最終、改めて浜田さんに「気候危機のど真ん中で仕事をしていて常々思うのは、別のことをしているけれど、その結果が気候にも関わっている、というのがいいのではということです」と、エールをいただき閉会となりました。



[プログラム]

■基調レクチャー

- ①「長野県における気候変動の影響」(浜田 崇)
- ②「気候危機に対するアートの行動」(ロジャー・マクドナルド)

■参加者によるグループディスカッション

■トークセッション

「Shinshu Arts-Climate Camp」について
(金井直、ロジャー・マクドナルド、直井恵、野村政之)

主催: 信州アーツカウンシル(一般財団法人長野県文化振興事業団) 長野県

共催: 信州大学人文学部、信毎メディアガーデン

入場料: 無料 参加者(オンライン視聴含): 90名

アドバイザーボード 総評

信州アーツカウンシルでは、文化芸術分野の専門家から構成されるアドバイザーボードを設置し、助成事業の審査、ならびに実施事業についての助言・評価をいただいています。令和4年度は4回の会議を開催。令和5（2023）年3月28日の会議では、コーディネーターから令和4年度の活動全般に関する報告を行い、アドバイザーボードのみなさんから総評をいただきました。

辻野 隆之

茅野市民館指定管理者
株式会社地域文化創造取締役顧問



シンビズムやNAGANO ORGANIC AIRなどの主催事業を通して、信州アーツカウンシルと県内各市町村の文化施設が関わりを持って1年になったと思います。これまでは、各市町村の文化施設が単独で地域の文化振興を担ってきましたが、これからは信州アーツカウンシルと共振・連携しながら、資金調達も含めて取り組んでいくことが必要だと思います。信州アーツカウンシルと各市町村の文化施設がどのように連携していくのか、これは文化施設の運営に携わる自分としても課題だと考えています。各地の文化施設が共振・連携することを通して、各地域で文化芸術に携わる担い手を育て、文化芸術に関わることの楽しさ・面白さが地域に広がっていけばよいと思っています。

吉本 光宏

株式会社ニッセイ基礎研究所
社会研究部研究理事



この1年間の活動をお聞きして、コーディネーターが助成団体の事業や活動に実際に立ち会うという"伴走支援"の取組が、コーディネーター自身の新たな学びや発見につながっていることが実感できました。その意味で、助成支援は地域をリサーチすることに似ていると思います。1年間の助成支援を通して、信州アーツカウンシルの新しい活動のヒントや支援のタネが多く見つかったのではないのでしょうか。

長野県は広い県土に多様な地域があり、掘れば掘るほど新しい出会いや発見が出てくると思います。それらの掘り起こしを進めると同時に、信州アーツカウンシルが支援する団体が一堂に会して、互いに情報交換ができる機会があると、各地の担い手の方々にとっても刺激になると思います。ぜひ実施していただければと思います。

ロジャー・マクドナルド

特定非営利活動法人AIT
プログラムディレクター



3月の連携フォーラムから「Shinshu Arts-Climate Camp」も始まり、環境分野の取組に関しては、信州アーツカウンシルは全国のアーツカウンシルのなかでもかなり先駆的な動きをしていると思います。今後も"Environmental Responsibility=環境への責任"を、主要なテーマの1つに据え、活動を進めていただきたいです。

これからの時代においては、子どもや若い世代がいきなり文化芸術にアクセスできるか、そして、いかにクリエイティブなスキルや体験にアクセスできるかも重要な課題だと思います。これらの課題に対処するためには、信州アーツカウンシルが県内の美術館や文化施設と連携し、若い世代が文化芸術に触れる機会を広げていく必要があると思います。

若林 朋子

プロジェクト・コーディネーター
立教大学大学院教員



信州アーツカウンシルが設立されてまだ1年目ですが、すでに何年も活動しているアーツカウンシルのように、しっかり運営されてきた1年だったというのが全体の活動報告を聞いた感想です。採択団体の活動は実施される地域のことをもっと知りたいと思わせてくれるプロジェクトばかりでした。事業概要を見るだけでも実際に訪れてみたい、見てみたいと感じる団体が多いのが印象的です。助成事業は不採択団体についても、実際にどのような活動だったのか可能な範囲で把握しておくことが望ましいと思います。

長野県には、"障がい者支援"や"社会包摂"という言葉にはおさまりきらない、より包括的な"ケア"の取組も多いように感じています。今後、そうした先駆的な試みも支援していくことで、信州アーツカウンシルの助成の特徴が提示できるのではないのでしょうか。

信州アーツカウンシル

コーディネーター座談会



アーツカウンシル長・津村卓、野村政之、伊藤羊子、佐久間圭子、藤澤智徳の5名で、令和5年3月2日に令和4年度の活動を振り返る座談会を開催。雑感から活動の価値や課題まで多岐にわたって語り合った。

それぞれの活動を経て

野村 みなさんがこれまでやってきた仕事や経験をふまえて、今年度の感想から入っていきたいと思います。

伊藤 長年、美術館学芸員や公共ホールのスタッフとして勤めてきました。そこでは民間の方が見えにくい面があったんです。でも、アーツカウンシル(以下、AC)の活動をとおして、いままでと違う側面から文化芸術活動を見ることができました。地域で活動している方たちとの関わりが増え、より広大な世界が広がっているのがわかりました。

佐久間 これまでデザインやまちづくりに関連する仕事をしてきました。そのなかで、いつも足りないのが人だったんです。「こういうことをしてくれる人がいないかな」という話がいたるところでありました。ACで働き始めてから、助成事業の団体のみなさんと、さまざまなかたちで関係を持つことができ、人と人をつなげる仕事をしたいと思っていたことを、まさにできているという実感があります。

藤澤 関西での劇場勤務を経てUターンし、前職では長野県芸術監督団事業に携わりました。いま来年度に向けて助成相談をしているのですが、一緒に企画を考えている感じがして、すごく楽しいです。この面白さに、一年かけてやっと気づくことができました。

野村 沖縄アーツカウンシルのスタッフをやっている時に長野県から声がかかって、県庁で3年半、ACを始めるために肩を温めていました(笑)。予想はしていましたが、県内の文化芸術活動にはポテンシャルがあります。まだまだ私たちが支援できる対象がいるとい

うことも確認できた一年でした。

津村 民間・公共と、いくつもの劇場の立ち上げに関わってきました。今年度一番感じたのは、文化芸術に関わる方の比率が、地域の公共ホールからACがやっているような事業へと、移行する時代に来たのではないかと、特にコロナ禍の3年間で、それが顕著に出てきたのではないかとということです。今後は、地域の民間非営利団体やアーティストの方々が、文化事業を起こす一番の源になっていくだろうと確信できました。



津村 卓
(つむら たかし)
アーツカウンシル長

新たな地域文化の発見

野村 ACのひとつの特徴として、公演などのイベントそのもの以上にそこにいたるプロセスを大切にすることが挙げられます。たとえば、上田市のリベルテ(P20)さんは、パレードしながら、道ゆく人にドライフラワーの花束を渡すという活動を実施したのですが、花を渡す瞬間は、その演者とお客さんの間でドラマが起きているような感じもしたし、引きで見たら、みんな参加者という感じもした。花束や衣装を準備する時間もリベルテのメンバーさんにとっての創作活動でした。ああいうかたちの活動を、ひとつの芸術としてとらえられたことが良かったなと思います。



特定非営利活動法人リベルテ
「花とひらく ～路地をひらき、ちんどんパレード～」

佐久間 麻倉さん(P8)からは「この事業をやる価値みたいなものを、最後の最後で改めて実感し始めている」というメッセージをいただき、これまでの活動を振り返るいい機会になったんだと思いました。

津村 自分たちだけだと気づかないことが、きっとたくさんあるんじゃないかなと思います。あとは「こんなことをやろう」と思った時に「それ面白いね」と肯定してもらおうことも、すごく重要ですよ。そこで最初に肯定する人がACなのかもしれないなと。

伊藤 それでわかりました。相談会の時に藤澤君がすごく褒めていましたよね。「しびれますね！」と言っていたのにびっくりしたんです。そこまで言うんだって(笑)。



伊藤羊子
(いとう ようこ)
チーフコーディネーター

藤澤 なんでもかんでも「いいね」と言っているわけではなく、僕のスタンスとしては、企画した人よりもこの企画のことが分かるといいなと思って。申請書に書かれていることは体裁を整えてあるので、本音がよくわからない。でも、よく聞いてみると実はこうだったみたい、そういう時は「しびれますね」(笑)。

野村 相談会は企画会議でもあるんだけど、健康診断でもあるんですよ、問診というか。事業者さんから出てきたものは全部受け止めるという姿勢で、その人のパーソナリティーを認めたうえで提案をする、これが我々の専門性だと思っています。

津村 握手じゃなくてグッと手を握れるか。医学的なことを言われても腑に落ちないんだけど、医師が最後に「一緒がんばりましょう」と言ったら、すっと落ちることってありますよね。

野村 この「YES and ..の道」は結構深いですよ(笑)。我々がやることは担い手の持続的な活動を支援することだから、その活動をするための「ボディー」も大事ということですよ。どうしたら本当に持続的な活動に資する団体運営のサポートになるのかというところはまだ未着手です。企画への伴走が、その薬になるとは思っているんですが、持続的な活動にするためのリソースをどうやってそろえ、循環させるかなどの塩梅が難しい。



野村 政之
(のむら まさし)
ゼネラルコーディネーター

野村 「NAGANO ORGANIC AIR (P30)」での発見は何かありましたか。

佐久間 舒達さんの地域を見る目が面白かったです。舒達さんは木曽地域を冷静に俯瞰で見つめながら、自身の制作活動にも生かしていたんですが、こういうつながり方もありなんだってというのは発見でした。

野村 我々は、地域ならではの何かとアーティストを結びつけようとはしますが、舒達さんは自分自身の視点から、地域に新たな目線を表現してくれました。

津村 大町市出身の横山さんのプロジェクトも面白かったですね。自身が生まれたまちの風景を刷新していく作業は、地元の人にも刺激的だったのではないのでしょうか。アーティストになってUターンし、レジデンスで何かをやることの可能性を感じましたね。



© 安徳希仁
NOA大町のアーティスト・横山彰乃さん(中央)、ホストの信濃大町アーティスト・イン・レジデンスのみなさんと

長野県の文化的価値を拓く

野村 ACのひとつの成果として、助成した団体さん同士が励まし合っていたことがありますよね。自発的に、お互い鑑賞しあったり、リスペクトを交わしている雰囲気がありました。

伊藤 ACの枠組みがあったからできたことですね。

津村 この2、3年で長野県全体に対して、「長野、面白いね」と言われることが増えましたね。県全体が熱を持っていると見られているのは、ACを評価して言ってくれているんだろうなと思っています。

野村 実際、長野県に移住した方が、助成事業の半数以上の団体で活躍しています。長野県の暮らしや自然の魅力に加えて、文化的ポテンシャルで移住者の増加につながっていったらいいなと思います。

文化芸術を創る「担い手」とは

野村 最後に、県内の担い手が持続的に活動していくための課題や、ACとしてチャレンジしたいことなど、どうでしょうか。

伊藤 「シンビズム2022 (P32)」は「シンビズム1」(平成29年度)の出品作家さんのいまを紹介する機会になりました。作家さんの成長もあるし、我々の変化もあって、いろんな発見がありました。令和5年度は、3、40代の学芸員さんを中心に、教育普及として対話型鑑賞を継続して行いたいと思っています。暮らしのなかに文化芸術が普通に浸透していくような活動にできるよう、チャレンジしていきたいです。

藤澤 信州ACでは文化芸術の多様な担い手を支援するとしていますが、そもそも担い手とは誰なのかという問いは、ずっとありますね。個人的には、本業を持ちつつ兼業でプロデュースや表現活動をやっていく人が増えていくといいなと思っています。ただ、そうなった時に、プロがいないのかということではなくて、そのバランスが難しいなと思っています。



藤澤 智徳
(ふじさわ ともりの)
コーディネーター

佐久間 一番裾野にいる観客の方たちも含めての担い手で、文化芸術への関わり方はとても多層的だと思います。そのなかで誰かが事業をやり始めたら、「じゃあ、ちょっと協力してみようかな」と思えるようなネットワークを生むためにACがあるんだろうなと理解しています。「みなさん全員、関係者なんですよ」という、空気づくりみたいなところをやりたいですね。文化芸術というと「自分は関係ないの」と、自分は接点がないと思い込んでいる人が意外と多いので、そこはひとつ超えたいところだと思っています。



佐久間 圭子
(さくま けいこ)
コーディネーター

伊藤 「あなたも私も担い手なんですよ」ということですね。前職の上司の方が「ここは最先端じゃないけど最前線よね」っておっしゃったんです。「最先端のハイクオリティのものを求めるのではなくて、アートのことをみんなに広めていける、そういう人を増やしていく場所だよ」と。

野村 文化芸術の環境は人でできているんですよね。人口減少時代に突入したこの先、暮らしのなかで文化芸術を支えてくれるのは誰なのかといたら、自主的な活動の一部としてそれをできる人たちだと思うんです。かつては各地域にアマチュアとプロの線がなんとなくあって、そのあと、地域との線を引くような美術館・文化施設ができて、いま我々は、地域との関わりをどうしていくかを重要だと考えている。いままでは兼業の人は担い手として認知されていなかったかもしれないですが、我々の取組では、とても重要なプレイヤーです。我々がやっているのは、まさに文化芸術活動の担い手の発掘・育成であり、さまざまな団体との連携・協働による環境づくりの基盤となるのが、その担い手のみなさんなのだろうと思っています。



広報・発行物

2022年4月

- Facebook、Twitter、Instagramを開設

2022年5月

- 6/11キックオフイベント チラシ (A4 カラー/モノクロ両面)

2022年8月

- 簡易リーフレット 発行 (A4 モノクロ両面)
- noteを開設

2022年9月

- メールマガジン「信州アーツカウンシル NEWS LETTER」配信開始

2022年10月

- 2022ガイドブックを発行 (仕上がりA4 両面 カラー 観音折8P)

2022年12月

- 長野県文化振興事業団Webサイト内に紹介ページ開設

2023年3月

- NAGANO ORGANIC AIR 2022ドキュメントブック発行



信州アーツカウンシル
キックオフイベント チラシ



信州アーツカウンシル 2022
ガイドブック

SNS・WEB

信州アーツカウンシルの情報は、SNSやWebサイトからご覧いただけます。



shinshu.ac



shinshu_ac



shinshu_ac

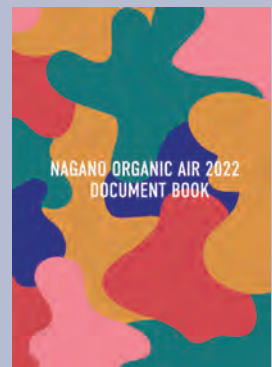


note

https://note.com/shinshu_ac

WEB

(一財)長野県文化振興事業団 Webサイト内 信州アーツカウンシル
https://naganobunka.or.jp/shinshu_artscouncil



NAGANO ORGANIC AIR 2022
ドキュメントブック

メールマガジン

不定期
月3回程度

ご登録は
こちらから

「信州アーツカウンシル NEWS LETTER」

各種助成事業や主催事業のお知らせ・レポートなど、旬な情報をみなさまにいち早くお届けしています。



令和5(2023)年6月発行

編集・執筆 水橋絵美(結文舎)、信州アーツカウンシル
デザイン アイコ美術工藝社
発行 信州アーツカウンシル
(一般財団法人長野県文化振興事業団 アーツカウンシル推進局)
〒380-0928 長野県長野市若里 1-1-4 県立長野図書館1階
TEL 026-223-2111 FAX 026-223-2112
MAIL | artscouncil@naganobunka.or.jp
WEB | https://shinshu-artscouncil.jp

信州アーツカウンシルは、長野県文化振興基金により運営されています。

令和5年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業

